

基本計画書

基 本 計 画										
事 項		記 入 欄							備 考	
計 画 の 区 分		学部の学科の設置								
フ リ ガ ナ 設 置 者		ガッコウホウジン トウホウガクエン 学校法人 東邦学園								
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称		アイチトウホウダイガク 愛知東邦大学								
大 学 本 部 の 位 置		愛知県名古屋市長東区平和が丘三丁目11番地								
大 学 の 目 的		愛知東邦大学は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、本学園建学の精神に基づく人間教育を行い、広い教養と深い専門知識を授けるとともに、旺盛なる自主の精神と強い責任感を涵養して、地域社会の発展に貢献し得る有為な人材を育成することを目的とする。								
新 設 学 部 等 の 目 的		企業や地域社会の振興を担う優位な経営資源としての地域、観光、グローバルのビジネス領域に着目し、急速な経済的変化が予測される地域経済のために、中長期的視点を持ち、必要となる経営課題を提示し、かつ地域経済社会の課題を解決しうる構想力と実践力を備えた人材の育成を教育研究上の目的とする。								
新設学部等の概要	新 設 学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	経営学部	年	人	年次人	人	学士（経営学）	経済学関係	年 月 第 年次 令和7年4月 第1年次 令和9年4月 第3年次	愛知県名古屋市長東区平和が丘三丁目11番地	
	ビジネス学科	4	120	3年次3	486					
	計		120	3年次3	486					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		経営学部 コミュニケーション・デザイン学科（50）（令和6年5月届出） 地域ビジネス学科（廃止）（△130） 国際ビジネス学科（廃止）（△30） （3年次編入学定員）（△4） ※令和7年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は令和9年4月学生募集停止） 人間健康学部 人間健康学科〔定員増〕（6）（令和7年4月） （3年次編入学定員）（3）（令和9年4月） 教育学部 子ども発達学科〔定員減〕（△18）（令和7年4月）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計					
	経営学部 ビジネス学科	95科目		60科目		11科目	166科目	124単位		

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設	経営学部 ビジネス学科	11 (11)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	65 (26)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	16 (16)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)			
	小計（a～b）	11 (11)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	18 (18)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	11 (11)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	18 (18)			
新設	経営学部 コミュニケーション・デザイン学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	69 (38)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数8人 令和7年5月届出済み
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)			
分	計	16 (16)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	26 (26)	0 (0)	－ －	
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
既設	人間健康学部 人間健康学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	19 (19)	0 (0)	10 (2)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数10人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	19 (19)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	8 (8)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	19 (19)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	8 (8)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	19 (19)			

既 設 分	教育学部 子ども発達学科			7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	38 (13)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数8人		
	設 分	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)					
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
		小計（a～b）		7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)					
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
		計（a～d）		7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)					
	計			15 (15)	9 (9)	4 (4)	4 (4)	32 (32)	0 (0)	- -			
合 計			31 (31)	15 (15)	7 (7)	5 (5)	58 (58)	0 (0)	- -				
職 種			専 属			その他			計				
事 務 職 員			23 (23)			0 (0)			23 (23)				
技 術 職 員			0 (0)			0 (0)			0 (0)				
図 書 館 職 員			1 (1)			0 (0)			1 (1)				
そ の 他 の 職 員			0 (0)			0 (0)			0 (0)				
指 導 補 助 者			0 (0)			0 (0)			0 (0)				
計			24 (24)			0 (0)			24 (24)				
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		借用面積： 383.00㎡ （運動場用地） 借用機関：3年 契約期間ごとに 更新		
	校 舎 敷 地		51,323.23 ㎡		0 ㎡		0 ㎡		51,323.23 ㎡				
	そ の 他		1,567.64 ㎡		0 ㎡		0 ㎡		1,567.64 ㎡				
	合 計		52,890.87 ㎡		0 ㎡		0 ㎡		52,890.87 ㎡				
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
			18,544.16 ㎡ (18,544.16 ㎡)		0 ㎡ (0 ㎡)		0 ㎡ (0 ㎡)		18,544.16 ㎡ (18,544.16 ㎡)				
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		39 室		教 員 研 究 室		56 室		大学全体 共同研究室1室含 む		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		電子図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 冊		機械・器具 点	標本 点	※学科単位での 特定不能なた め、学部全体の 数
	経営学部 ビジネス 学科		34,273 [5,133] (33,533 [5,073])		80 [15] (22 [0])		39 [5] (35 [2])		0 [0] (0 [0])		0 (0)	0 (0)	
	計		34,273 [5,133] (33,533 [5,073])		80 [15] (22 [0])		39 [5] (35 [2])		0 [0] (0 [0])		0 (0)	0 (0)	
スポーツ施設等			スポーツ施設			講 堂			厚生補導施設				
			1261.25 ㎡			0 ㎡			808.06 ㎡				

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		教員 1 人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	- 千円	- 千円		
		共同研究費等		435千円	435千円	435千円	435千円	- 千円	- 千円		
		図 書 購 入 費	2, 230千円	201千円	390千円	602千円	780千円	- 千円	- 千円		
		設 備 購 入 費	150, 548千円	150, 548千円	150, 548千円	150, 548千円	150, 548千円	- 千円	- 千円		
	学生 1 人当り 納付金			第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	届出学科全体	
			1, 330千円	1, 050千円	1, 050千円	1, 050千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			寄付金、私立大学等経常費補助金、雑収入等							大学全体	
既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称		愛知東邦大学								令和7年より学生募集停止 令和7年より学生募集停止
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所 在 地	
	経営学部		年	人	年次人	人		倍		愛知県名古屋市名東区平和が丘三丁目11番地	
	地域ビジネス学科		4	130	-	510	学士（経営学）	1. 01	平成13年度		
	国際ビジネス学科		4	30	4	128	学士（経営学）	0. 92	平成28年度		
	人間健康学部							0. 97			
	人間健康学科		4	120	-	480	学士（人間健康学）	0. 97	平成19年度		
	教育学部							0. 65			
	子ども発達学科		4	68	-	272	学士（教育学）	0. 65	平成26年度		
附属施設の概要			該当なし								

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部ビジネス学科)

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員(助手を除く)		
総合教養科目	東邦コア科目	学園理念から読み解く現代社会	1前			2		○								1		
		基礎演習Ⅰ	1前	○	2				○		5	3				4		
		基礎演習Ⅱ	1後	○	2				○		5	3				4		
		総合演習Ⅰ	2前	○	2				○		7	2						
		総合演習Ⅱ	2後	○	2				○		7	2						
	プロジェクト科目	東邦プロジェクトA	1後	○		2			○		2					1		
		東邦プロジェクトB	2前	○		2			○		1	1				1		
		東邦プロジェクトC	2後	○		4			○							1		
		東邦プロジェクトD	3前	○		4			○							1		
		入門ボランティア	1前			2		○								1		
		海外研修A	1・2・3・4休			2				○	1							
		海外研修B	1・2・3・4休			2				○	1							
		海外研修C	1・2・3・4休			4				○	1							
	リベラルアーツ科目	アカデミック	経済学	1前			2		○								1	
			政治学	2後			2		○								1	
			文学	1前・後			2		○								1	メディア
			世界史	1前			2		○								1	
			日本史	1後			2		○								1	
			社会学	1後			2		○								1	
			哲学	2前			2		○								1	メディア
			文化人類学	2後			2		○								1	メディア
			心理学	1前			2		○								1	メディア
			倫理学	2前			2		○								1	
			生命科学	2前			2		○								1	
			スポーツ科学	2後			2		○								1	
			地理学	2前			2		○								1	
			憲法	1前・後			2		○								1	メディア
			自然科学基礎	1後			2		○								1	
	カルチャー	技術革新と未来社会	2後			2		○							1			
		インターネット社会論	2後			2		○							1			
		メディアコンテンツ入門	2前			2		○			1							
		地域コミュニティ論	2後			2		○			1							
		グローバルリスク	2後			2		○							1	メディア		
		名古屋の歴史と文化	1前			2		○							1			
		都市空間と地域まちづくり	2前			2		○							1			
		異文化コミュニケーション	2後			2		○				1						
		世界の食文化	1後			2		○							1	メディア		
		世界の芸術	2前			2		○							1			
		音楽と社会	2前			2		○							1			
		サブカルチャー論	2前			2		○							1			
		演劇論	2前			2		○							1			
		食と健康	1前			2		○							2	メディア、オムニバス		
		わたしたちの身体	1前			2		○							1	メディア		
		高齢社会論	2後			2		○							1			
		福祉と社会	1前			2		○							1			
		宗教と社会	2前			2		○							1			
		国際組織論	2後			2		○				1						
		ジェンダー論	3前			2		○							1	メディア		
環境リテラシー	3前			2		○							1					
地震と安全	3後			2		○							1	メディア				
日本の文化	1後			2		○							1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部ビジネス学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 (助 手 を 除 く) 教 員	
総合教養科目	カルチャーツ科目 健康・スポーツ実習 スポーツ実技 (フィットネス&エアロビ) スポーツ実技 (ストレッチング&ヨガ) スポーツ実技 (マシントレーニング) スポーツ実技 (球技)	1前 2前 2後 2前・後 2前・後			2 1 1 1 1				○ ○ ○ ○ ○						3 1 1 1 1	※講義
	スキル科目 アカデミックライティングⅠ アカデミックライティングⅡ プレゼンテーション技術 クリティカル・ロジカルシンキング システム思考入門	1前 1後 2後 2前 2後			2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○		1 1 1					1 1 1 1 1	メディア メディア
総合教養科目	語学 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 英語オーラルコミュニケーションⅠ 英語オーラルコミュニケーションⅡ 中国語総合Ⅰ 中国語総合Ⅱ 中国語オーラルコミュニケーションⅠ 中国語オーラルコミュニケーションⅡ 韓国語入門 スペイン語入門 フランス語入門 ポルトガル語入門	1前 1後 2前 2後 1前 1後 1前 1後 1前 1後 2前・後 2前・後 2前・後 2前・後			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○				3 3 1 1 2 2 1 1 1 1 1 1			2 2 1 1 1 1 1 1	
	AIリテラシー 数理の世界 確率と統計 PC・ネットワーク入門 データリテラシーⅠ データリテラシーⅡ AIリテラシー	1前 2前 1前 1後 2後 2前			2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○			1 1	1				1 2 2 1 2	メディア オムニバス
ライフデザイン科目	キャリア形成 ライフデザイン キャリア基礎 キャリアプランニングⅠ キャリアプランニングⅡ リーダーシップ入門 アントレプレナーシップ入門	1前 1後 2後 3前 2前 1前			2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○			1					1 1 1 1	
	就業体験 キャリア体験 キャリア体験実習A キャリア体験実習B キャリア体験実習C	2前 2・3 前・後 2・3 前・後 2・3 前・後			2 1 2 4			○ ○ ○ ○		1 1 1 1						
	小計 (91科目)	-	-	8	163	0	-	-	-	10	4	3	0	0	55	

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部ビジネス学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 (助 手 を 除 く) 教員	
専 門 科 目	基 礎 科 目	経営学Ⅰ	1前	○	2		○			1	1					オムニバス オムニバス オムニバス
		経営学Ⅱ	1後	○	2		○			1	1					
		経営管理論	2前	○	2		○			1	1					
		入門マーケティング	1前	○	2		○			1						
		ブランド構築論	1前	○	2		○								1	
		イノベーション入門	1前	○	2		○			1						
		学びの基礎Ⅰ	1前	○	2			○							1	
		学びの基礎Ⅱ	1後	○	2			○							1	
		会計学入門	1前	○	2		○			1						
		現代経済学	1後	○	2		○								1	
	基 幹 科 目	地域ビジネス概論	1後	○	2		○			1						
		観光ビジネス論	1後	○	2		○			1						
		グローバルビジネス論	1後	○	2		○				1					
		消費者行動論	2前	○	2		○			1						
		ビジネスプランニング	2後	○	2			○		1						
		現代広告論	2前	○	2		○								1	
		ビジネス統計学	2前	○	2		○				1					
		営業データ論	2後	○	2						1					
		経営戦略論	2前	○	2		○				1					
		経営組織論	2後	○	2		○			1						
展 開 科 目		会計学	2前		2		○			1						
		金融論	3前		2		○				1					
		ビジネス財務論	3後		2		○			1						
		日本経済論	2前		2		○				1					
		生産マネジメント論	2後		2		○			1						
		人的資源管理論	3前		2		○			1						
		企業とコンプライアンス	3前		2		○								1	
		ビジネス法規	3後		2		○								1	
		Webマーケティング	2後		2			○							1	
		商品プランニング	3後		2			○							1	
		データ解析演習	3前		2			○							1	
		ビジネス統計演習	3後		2			○			1					
		現代企業論	3前		2		○								1	
		消費文化論	3後		2		○				1					
		地域振興論	2前		2		○			1						
		非営利組織論	2後		2		○			1						
		中小企業論	2後		2		○								1	
		都市開発論	3前		2		○								1	
		アントレプレナーシップ論	3後		2		○			1						
		観光マネジメント	2前		2		○			1						
		レジャー産業論	2後		2		○			1						
		観光資源探求	2後		2			○		1						
		地域観光論	3前		2		○			1						
		現代観光論	3後		2		○			1						
		International Business English I	2前		2			○				1				
		International Business English II	2後		2			○				1				
		Marketing and Management in English	3前		2			○							1	
		国際貿易論	2後		2		○				1					
		アジア経済論	3後		2		○				1					
		スポーツマネジメント	2前		2		○			1						
		スポーツビジネス	2後		2		○			1						
		スポーツ情報論	3前		2		○			1						

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営学部ビジネス学科)

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員 (助手を除く)	
専門科目	展開科目	コミュニケーション技能	2前			2			○			1					
		マーケティングプレゼンテーション	2後			2			○		1						
		ビジネスプレゼンテーション	3前			2			○		1						
	関連科目	情報メディア論	1後			2		○									1
		アメリカの文化と社会	2前			2		○					1				1
		中国の文化と社会	2後			2		○				1					1
		アジアの文化と社会	3前			2		○									1
		イスラムの文化と社会	3後			2		○									1
		日本文化論	3後			2		○									1
		地域ビジネス特講Ⅰ	2前			2		○									1
		地域ビジネス特講Ⅱ	2後			2		○									1
	プロジェクト科目	課題解決概論	1前	○		2		○				1					
		プロジェクト基礎	1後	○		2			○								1
		課題解決プロジェクトⅠ	3前	○		2			○		1						1
		課題解決プロジェクトⅡ	3後	○		2			○		1						1
		課題解決プロジェクトⅢ	4前	○		2			○		2						
		課題解決プロジェクトⅣ	4後	○		2			○		2						
		イベントプランニング	2前			2			○		1						
		マネージャー演習	2後			2			○								1
	ゼミナール	専門演習Ⅰ	3前	○	2				○		4	2	1				
		専門演習Ⅱ	3後	○	2				○		4	2	1				
		専門演習Ⅲ	4前	○	2				○		4	2	1				
専門演習Ⅳ		4後	○	2				○		4	2	1					
	小計（75科目）	-	-	20	130	0	-	-	-	8	4	1	0	0	16		
合計（166科目）			-	-	28	293	0	-	-	11	4	3	0	0	65		
学位又は称号		学士（経営学）			学位又は学科の分野				経済学関係								
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
必修28単位、総合教養科目の選択科目から24単位、専門科目の選択科目から64単位（基幹科目から選択必修4単位を含む）、総合教養科目及び専門科目の選択科目から8単位を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：24単位（1学期））									1学年の学期区分				2学期				
									1学期の授業期間				15週				
									1時限の授業の標準時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教養科目	東邦コア科目 学園理念から読み解く現代社会		2023年に創立100周年を迎えた東邦学園は、建学の精神に「真に信頼して事を任せられる人格の育成」、校訓に「真面目」を掲げ、教育活動を行ってきた。1世紀経ても色あせない理念を踏まえて、私たちは多様な価値観が交錯する現代社会をどう読み解いたらいいのかを考える。現代社会を読み解くにあたって、様々な制度や考え・課題はどんな歴史を経て今に至ったのかについて資料や過去の映像、テキストを使って、時系列的に諸課題のポイントを整理しながら説明する。社会、文化等に関連する幅広い知識の習得と活用を目指し、学園が生まれた1世紀前からの歴史をたどって、現代を見つめ直す眼を養うことを到達目標とする。以上の内容を講義形式で行う。	
	基礎演習Ⅰ	○	大学生としての個人の基礎力をつけることをねらいとする。高大接続を意識しつつ、導入教育として、学生同士の人間関係の構築を図り、大学生活への導入をスムーズに行えるようにする。また、学びへの関心を引き起こし、自分の成長のための自己管理の重要性を認識させ、習慣化させる。自己管理にはポートフォリオを活用し、その記録を確認しながら個別の面談により、指導を行う。また、講義の受け方、話の聞き方、話し方などに加えて、レポートの書き方などを行う。同時に新しい人間関係の構築も目指す。以上の内容を演習形式で行う。	主要授業科目
	基礎演習Ⅱ	○	グループでの学びを体験することを主なねらいとする。「基礎演習Ⅰ」を個人の力の育成とするなら、「基礎演習Ⅱ」は大学生活の更なる充実を目指して、自発的な学習やグループを中心とした学習活動を行う。具体的にはテーマを設定したレポートの作成やプレゼンテーションを通して、研究のまとめ方と、発表に際しての工夫や表現力を身に付ける。そのことによって、グループ内での役割分担などチームでの物事の進め方を体験的に学習する。さらに、専門教育への動機付けとして、専門家による講演を行う。以上の内容を演習形式で行う。	主要授業科目
	総合演習Ⅰ	○	基礎的な知識の習得と、実践力の育成を行う。そのうえで、観察・実地見学などを行い、必要な見聞を広める。学外授業を行うこともあり、学習の物理的な空間が広がる。見聞して得た成果を活用して、今まで知り得た知識に融合させて、立体的で、柔軟な学びの全体像を持つ。社会につながる学びのおもしろさを確認できるように、大学と地域、大学と社会へのつながりを意識した演習である。以上の内容を演習形式で行う。	主要授業科目
	総合演習Ⅱ	○	「総合演習Ⅰ」で得た関心と、ゼミでの人間関係構築の成果として、プレゼンテーション、ディベート、レポートなどを作成し、学生自身の思考を掘り下げ、かつ行動力を鍛えていく。とりわけ企画力はこれから必要な能力のひとつであり、レポート、プレゼンテーションの企画では、何をやるのか、必要な情報は何かなど、あらゆる条件をクリアしていくことを体験学習として位置づける。また、集団的な学びが体験できるよう、自身と他者のコミュニケーションを十分に図れるよう、アクティブな学習を展開する。以上の内容を演習形式で行う。	主要授業科目
	プロジェクト科目 東邦プロジェクトA	○	自主的に学ぶ中で「個々が目指す社会人」に必要な力（就業力等）を身に付けることを目的とし、「今よりもうちょっとまちを元気に！」をテーマに「まちの活性化プロジェクト案」を作成する。授業の前半では、必要なスキルを学び（座学）、学んだスキルを活かしながら、フィールドワーク等のアクティブラーニング・論理的思考力・コミュニケーション力・課題解決力等を養う。授業の後半ではPBL（課題解決型学習）手法を用いる。地域連携を前提として自ら想像し、創造する「答えのない」学びのプロジェクトを展開する。以上の内容を演習形式で行う。	主要授業科目
	東邦プロジェクトB	○	自主的に学ぶ中で「個々が目指す社会人」に必要な力（就業力等）を身に付けることを目的とし、「まちの活性化プロジェクト」を実践する。授業スタイルは地域連携PBL（課題解決型学習）とし、PBL手法を用いる。原則として実践に必要なこと全てを学生自身が主体となつて、学内・学外の協力者と交渉しながらプロジェクトを実践していく。実践に必要なスキルや情報を修得できるよう、適宜、座学での学びを取り入れていく。以上の内容を演習形式で行う。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合 教養 科目	プロジェクト科目	東邦プロジェクトC	○ 自主的に学ぶ中で「個々が目指す社会人」に必要な力（就業力等）を身に付けることを目的とし、他者が「東邦プロジェクトB」で実践した「まちの活性化プロジェクト」を検証し、ブラッシュアップさせた「もっとまちの活性化プロジェクト」を作成する。授業スタイルは地域連携PBL（課題解決型学習）とし、PBL手法を用いる。原則として学生自身が主体となって実践結果についての検証と新たな計画の策定を行う。新たな計画の策定にあたっては、必要に応じパイロット実施も組み込みながら計画の精度を上げていく。以上の内容を演習形式で行う。	主要授業科目
		東邦プロジェクトD	○ 自主的に学ぶ中で「個々が目指す社会人」に必要な力（就業力等）を身に付けることを目的とし、「もっとまちの活性化プロジェクト」を実践する。授業スタイルは地域連携PBL（課題解決型学習）とし、PBL手法を用いる。原則として実践に必要なこと全てを学生自身が主体となって、学内・学外の協力者と交渉しながらプロジェクトを実践していく。実践に必要なスキルや情報についても学生自身で学ぶ内容について議論し、その習得方法についても自ら検討することも想定しながらプロジェクトを実践していく。以上の内容を演習形式で行う。	主要授業科目
		入門ボランティア	ボランティアについての理解を深め、積極的にボランティア活動に参加するための動機づけを目的とする。そのために、ボランティアに対する基本的な理解から始め、具体的な活動、歴史などを学び、ボランティア団体、NPO（非営利組織）の基礎に至るまで、学んでいく。授業の目標は以下のとおり。①ボランティアについての基本理解の確立、②ボランティア活動の概略と大学近辺における各種ボランティア活動についての理解、③ボランティア体験と発表、④ボランティア団体とNPOについての理解、⑤ボランティア活動への参加意欲の涵養。以上の内容を講義形式で行う。	
		海外研修A	本学の交流協定校への短期海外研修（2週間）に参加し、語学力の向上とともに、異文化に対する実際的な理解を深めることを目的とする。具体的には、交流協定校との間で作成したプログラムに参加するほか、語学講座への参加、現地企業、地域組織などの視察、現地の人々との交流を通じて異文化交流を体験する機会を提供する実習方式の授業である。また事前学習、事後学習も実施し、現地教員、引率教員の評価もふまえ、総合的に成績を判定する。また、実施に当たっては、参加者の安全性に十分配慮した体制を構築する。	
		海外研修B	本学が主催する海外での現地研修（2週間）に参加し、異文化に対する実際的な理解を深めることを目的とする。具体的には、現地企業、地域組織などの視察、現地の人々との交流を通じて異文化交流を体験する機会を提供する実習方式の授業である。また事前学習、事後学習も実施し、現地教員、引率教員の評価、口頭発表やレポートの内容もふまえ、総合的に成績を判定する。なお、実施に当たっては、参加者の安全性に十分配慮した体制を構築する。	
		海外研修C	本学の交流協定校等への中期海外研修（4週間）に参加し、語学力向上とともに異文化に対する実際的な理解を深めることを目的とする。具体的には、語学講座への参加、現地企業、地域組織などの視察、現地の人々との交流を通じて異文化交流を体験する機会を提供する実習方式の授業である。また事前学習、事後学習も実施し、教員の成績評価、口頭発表やレポートの内容をふまえ、総合的に成績を判定する。なお、実施に当たっては、参加者の安全性に十分配慮した体制を構築する。	
	リベラル アーツ 科目	アカデミック	経済学 政治学	
		経済学	ミクロ経済学として、家計の消費行動論から需要曲線を、企業の生産決定論から供給曲線をそれぞれ導く。それらに基づき、市場経済論を扱う。また、マクロ経済学では、国内総生産（GDP）の各構成要因を説明した上で、GDP決定論を扱う。その後、国際収支、外国為替相場について基礎的内容を説明した上で、日本経済の状況を説明する。本授業で目標とする点は、経済学的な基本的見方を身につけることと、各自がその中で毎日の生活を送っている日本経済の現状が理解できるようになることである。以上の内容を講義形式で行う。	
		政治学	現代および過去の日本を初めとする民主主義諸国における政治システム（行政府と立法府の権力分立、立法府の内部構造、中央・地方関係、選挙制度、政党システム、etc.）の多様性を学ぶことで、今後の政治体制の「あるべき姿」を考える上での幅広い視座を手に入れると同時に、他の社会科学の分野を学ぶ上でも必要な基礎知識および論理的な思考力を養うことを目標とする。講義形式で行い、レジュメとパワーポイントを併用する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合 教養 科目	アカ デミ ック	文学	文学についての総合的な理解を目的として、講義形式で行う。まず、世界文学史的な視点から文学の成り立ちと諸ジャンルについての解説をおこない、文学の基礎的な情報を伝達する。続いて、現代文学を具体的な題材として用いながら、文学作品に対する様々なアプローチ法を紹介する。各アプローチ法については、言語論に始まり、物語論、テーマ論、作家論といったベーシックなものから、精神分析学的批評やジェンダー・セクシュアリティ批評やポストコロニアル批評といった最新のものにいたるまで、包括的な紹介をおこない、文学および研究の奥行きと可能性を示す。	
	リベ ラル アーツ 科目	世界史	今日のグローバル社会で生きていくためには、世界の諸地域がいかなる歴史を歩んできたのか、そして、現代の国際社会がいかに形成されたのかを理解することが求められる。こうした歴史認識は、円滑な異文化コミュニケーションに資するのみならず、現在の社会が抱えている課題を認識し、解決することにもつながろう。以上の点を踏まえ、本授業は、近代的な国際秩序の成立という観点から、とりわけ「中世」から「近代」への展開に焦点を当てつつ、世界の歴史を概観してゆく。本授業を通じて、近代的な国際社会がいかに形成されてきたのか、そして、その形成過程でいかなる諸問題が生じてきたのかについて、主体的な分析・判断に基づき、自身の言葉で説明・表現できるようにすることが期待される。以上の内容を講義形式で行う。	
		日本史	本講義では、日本の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。日本史全体の流れと特色を理解することを目標とし、近年の研究成果も織り込みながら、各時代における重要な歴史的事件・事象を中心に解説を加えていく。また、「覚える」日本史ではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介しながら、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。	
		社会学	本講義は、社会学の基本的な見方や考え方を知り、その視点から身近な事例を分析・解釈することを通じて、社会学的思考のエッセンスを身につけることを目的とする。社会学的思考で、常識や事実（とされるもの）を疑い、事象を多角的に読み解く力は、複雑な現代社会を理解する上で役に立つリテラシーだといえる。また、社会で生起する様々な現象に対して知的好奇心を持ち、自ら考え、伝える力の育成にもつながっていく。そのために、授業は講義形式を基本としつつも、対話を重視した授業運営とする。	
		哲学	哲学は、人間と世界をめぐる最も根本的な諸問題について考える学問である。とくに、既存の価値観やモノの見方を吟味することで、自己と他者、社会についての理解を深め、よりよい生き方や社会のあり方を構想するための力を養う。存在とは何か、心とは何か、知識とは何か、など人類がこれまで問い続け、またこれからもだれもが疑問に感じるであろう、自分や他人の心、言葉と真理、存在と時間、人生の意味、人間の生命などの基本的な問題を、われわれの言葉と思考の枠組を省察することによって検討する。先人たちが哲学した問題を参考にしつつ、自分自身で、あるいは他者との対話を通じて、今後の学生生活や将来職業人としての生活を送るために益するであろう哲学的思考の獲得をめざす。	
		文化人類学	文化人類学は、「文化」という概念を手がかりに、さまざまな人間の行動の差異に注目し、それらを多様性と普遍性という観点からとらえ、「人間とは何か」について考える学問である。本講義における「文化」は一般に使われる「文化」の意味よりも広く、言語と同様に、人間の行動様式、身体所作、思考や認識にも影響を与えるものととらえている。そのうえで、文化人類学の知識、視点、方法を学び、ものごとや世界についての新しい認識の仕方を身に付ける。学びの基礎となる社会、文化、自然等の文化人類学および周辺領域に関する幅広い知識を習得し、それを活用することができることを目指す。以上の内容を講義形式で行う。	
		心理学	自分の心の状況を観察し、自己理解を深め、他者との関係性のあり方を探ることを目的とする。めまぐるしく変化していく社会状況の中で、揺れ動く心のバランスを保っていくことは、誰にとっても容易なことではない。まして、大学時代は学業上の問題、対人関係、進路の問題等、不安定になりやすい時期である。授業では受講生自身の心や日常の対人関係を素材にし、心理学、社会心理学の研究や実験を紹介しながら、人間の心と行動について理解を深める。以上の内容を講義形式で行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教養科目 リベラルアーツ科目	アカデミック	倫理学	個人や社会の道徳を考察する倫理学の基礎的内容を学ぶ。自らの日常生活にある様々な倫理的問題を発見し、問題を整理したり複数ある解決策を検討したりすることができるようになることを目標とする。はじめに社会的事実としての私たちの道徳判断の傾向を、心理学の知見をもとに学ぶ。その後、正しい行為の条件や規範を問う規範倫理学の代表的な学説を学ぶ。最後に、それらの知識を手がかりにして、動物の権利、生命倫理、法と刑罰、格差といった様々な社会的課題を取り上げ倫理的な観点から議論する。以上の内容を講義形式で行う。	
		生命科学	この地球上には様々な生命体が存在・共存し生命活動を行っている。本講義では私たち「ヒト」の身体のしくみを例にとり、「細胞」および「細胞の連携」をマクロとミクロの両視点から紹介し、「生命とは何か、生きているとはどういうことか」について理解することを目的とする。また、「細胞・生命活動の破綻」や「生命と環境」についても紹介し、日々の生活に活かせる教養を身につける。以上の内容を講義形式で行う。	
		スポーツ科学	「スポーツ科学」では、人間の運動について生理学や体力学的な観点から学ぶことが目標となっている。授業は講義形式で行われ、授業計画では、筋肉や骨格、神経、身体の発育・発達、女性の体格・体力、加齢に伴う老化、そしてトレーニングについての原則や方法などが扱われる。特に、筋力・パワーのトレーニングに係わる筋の特徴やトレーニング方法、運動に必要な身体のエネルギー源や持久性のトレーニング方法、そしてトレーニング計画に際しての目標設定や原則について学ぶ。	
		地理学	地理学の歴史の流れに沿いつつ、様々な地理学的なものの見方・考え方について解説する。この見方・考え方は意識されていないことも多いが、実は私たちの生活の様々なところに活用され、また存在しているものである。本授業では、地域・空間・分布・立地・知覚・環境などをキーワードにして、この見方・考え方を解説する。授業を通じて、身近な問題を新たな視点から捉え直すきっかけを提供する。以上の内容を講義形式で行う。	
		憲法	日本国憲法を通して、日本という国がどのように作られているのか、また社会問題のなかでも憲法と密接な関係のあるものを法的な視点で学んでいく。具体的には、政治と宗教の問題、自衛隊や米軍基地の存在、教育制度、選挙制度、人として生きる権利、他人から邪魔されない権利などを扱って、憲法について基本的な内容を勉強し、我が国の憲法には何が書かれているのか理解してもらうことを目的としている。必要に応じて、条文の意味や解釈、判例の紹介などを行い、法的な基礎知識の習得も目指す。以上の内容を講義形式で行う。	
		自然科学基礎	この科目は、現代社会を生きていく社会人として必要な自然科学の基礎知識・素養を身につけることを目的とした講義を行う。特に、日本において福島原子力発電所の事故以来大きな問題となっているエネルギー問題をテーマとして、それに関連するエネルギー、電気といった基礎的な概念の理解をめざす。また、遺伝子組み換えやiPS細胞といったテーマにより、生物のしくみの基本も取り扱う。これらを通して、広く科学的なものの見方・考え方を涵養し、新聞の一面・社会面に出てくる科学記事の基本が理解できることを到達目標とする。	
	カルチャール	技術革新と未来社会	本講義では、「未来の望ましい社会」のあり方を技術革新の観点から考える。第一に過去の技術革新が社会や人々に及ぼした影響を先行研究や事例で学ぶ。第二に現在の社会が抱える様々な課題を知り、それらの解決に向けて求められる技術革新について科学技術政策等で学ぶ。第三により良い社会を創るために技術革新が社会に貢献できることや、将来に向けて何ができるか/すべきかを考える。本講義では技術革新に対する理解を通じて、社会正義の視点や将来を見通す力を身につけ、より良い未来社会の創造に向けて自分自身の考えを他者に伝えられるようになることを目指す。以上の内容を講義形式で行う。	
		インターネット社会論	この授業では、インターネットに関連する歴史、トレンド、テクノロジーを学ぶ。特に、インターネットの発展における政府、民間企業、大学の役割に注目する。また、なぜ一部の国がインターネット発展の主導権を握れず、リーダーではなくフォロワーに追いやられてしまったのかを分析する。一方、インターネットが世界にもたらした社会問題や、ビジネス、政治への影響も取り上げる。インターネットの過去、現在、未来について能動的に分析し、意見を交換する。以上の内容を講義形式で行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教養科目	カルチャールーツ科目		現代人は多様なメディアを通じて、大量のコンテンツに毎日接している。歴史を振り返るとメディアテクノロジーの進歩と共に新たなコンテンツが生まれて来たことがわかる。現在、デジタル・テクノロジーによって、より大量のコンテンツがより高速に拡散されている。新たなメディアテクノロジーが登場すると人間の表現力が広がり、新たなコンテンツが生まれる。この授業ではメディアテクノロジーの進歩とそこから生まれるコンテンツの関係を考察し、デジタル・テクノロジーがコンテンツをどう変えるのか、その可能性と問題点について学ぶ。メディアに振り回されるのではなく、メディアを活用し、新たなコンテンツを生み出すにはどうしたら良いかを考える力を養う。以上の内容を講義形式で行う。	
	地域コミュニティ論		全国各地で「自治と協働による地域づくり」が活発になっている。この授業では、地域コミュニティにおける新しい「地域自治」と「協働」の取組みについて、具体的な事例を交えて理論的かつ実践的に学ぶ。「地域自治」では、自治会・町内会等が抱える課題や市町村合併の影響、地域の諸問題などによって、新しい地域自治組織を作ったり、新たな地域づくりに挑戦する動きが活発になっており、その現状・課題を学ぶ。「協働」では、そのあり方と必要性の理解を踏まえた上で、NPO（民間非営利組織）と行政・企業の協働事業の現状・課題を学ぶ。自治と協働に必要な「自治権」（市民主権・地域主権）についても併せて学ぶ。必要に応じて、各回で雑学、時事問題、就活情報等も紹介する。以上の内容を講義形式で行う。	
	グローバルリスク		「グローバルリスク」が発生した場合には、世界の人口、産業、自然などに悪影響を及ぼす、または及ぼす可能性がある。この科目では「世界の自然と産業」を保全するという観点から、地球環境問題への対応とSDGsの推進について講義を行う。地球環境問題は、温暖化・物質循環・海洋環境の破壊など、あらゆる問題を内包する。本講義では、いかに人間社会が環境に影響を及ぼしてきたのか、いかに問題を克服してきたのか、また、環境問題解決に向けた社会システムはどうあるべきか、そのためにどのような取組が必要なのかについて「持続可能性」という視点に立ち、SDGsを推進するための原則・諸手法について考察する。以上の内容を講義形式で行う。	
	名古屋の歴史と文化		本学の所在地である名古屋の文化の特徴は何か、その独自性はどこにあるのか、を追究するのがこの講義の目的である。主に現在の名古屋文化を取り扱うが、言うまでもなくそれが育ってきた歴史的・地理的背景に触れないわけにはいかない。また、日本の他の地域——東京、大阪、京都など——の文化との比較も本講義の重要な内容を構成する。少し先の話となるが、東京圏と1時間以内で結ばれることとなる未来に向かって名古屋の文化がどのように発展・変容していくのか、最後にこういった問題に自分なりの意見を述べられるようになることが本講義の到達目標である。	
	都市空間と地域まちづくり		都市は暮らしの場であり、私たちの生活を包み込む器（＝空間）と言える。その意味では、どのような地域（＝まち）を作っていくのかは私たち暮らしの質を左右する重要なテーマとなる。また、地域まちづくりにおいては多様な要素（分野と主体）から成っており、それらの要素を総合化することで地域まちづくりが実践されていく。ここでは広く社会の変化や仕組みを学ぶことを通じて、都市空間と地域まちづくりの現場の多様性に関心を持つようになり、感性および創造性の高い人材として成長していくことを目的とする。以上の内容を講義形式で行う。	
	異文化コミュニケーション		この授業の目標は、社会人として場面に応じた適切なコミュニケーションができる力を養成することである。理論に基づいて、他者の価値観・世界観・行動のパターンなどについて理解を深めながら、自己の態度や行動が具体的に変わるよう実践的に学んでいく。毎回の授業でエクササイズを行い、内省して文章にまとめる過程を通して学びを促す。コミュニケーション・モデル、言語メッセージ、自文化中心主義、文化相対主義、カルチャー・ショック、異文化適応、配慮表現等の内容を講義形式で行う。	
	世界の食文化		食文化は様々な地域や場面において人の価値観に対応する形で成立してきた。それは食材の選択、生産、加工、献立、食作法にまで及び、多様性を生み、食に関する技術を発展させてきた。しかし、近年における技術の発展や食文化のあり方は人にとって好ましいものばかりとは限らない。食文化の未来の展望やあるべき姿について考えを持つことを目標とし、授業では食文化の変遷とその背景を振り返ることで先人の工夫と努力を見つめ直し、食文化の現代的な問題点を検討する。また、グローバル化をたどる現代のニーズに応えられるよう世界の多彩な食文化学習対象とし、基礎知識を身につける。以上の内容を講義形式で行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合 教養 科目	カル チャ ー		本科目では講義形式により、世界の芸術文化の多様性と我国の伝統芸術の特徴について、主に環境的・歴史的要因との関連から論じる。まずは文化基盤である「風土と信仰」の観点から、人間と自然との共生が生んだ衣食住の文化様式、世界三大宗教の芸術文化の諸相を概観する。その上で我国の文化的背景、独自の美的様式をもつ伝統芸術を紹介する。さらに伝統文化の多くが異文化融合から生まれた事実をふまえ、後半ではアジア諸国との共通性・差異性への理解を深める。文化の縦軸と横軸の動態から、「人間文化における芸術の価値」について思考を促すことを目標とする。	
	音楽と社会		音楽は社会や文化を反映するものであるとともに、反発や抵抗も映し出す鏡でもある。時代ごとに社会の影響を受けて発展してきた現代の多様な音楽文化についてのレクチャーとディベートを通して、音楽文化を社会との関わりからとらえ直すことを目的に行う。各授業のテーマは音楽の多様性、社会性、生存価、ICT等について扱う。各授業のテーマに関するレクチャー（講義）とディベート（議論）から構成する。また、必要に応じてワークショップ（体験）を取り入れる。	
	サブカルチャー論		カルチャー（文化）とは、人類が生活を豊かにするため築き上げてきた成果のことで、それぞれの民族・地域・社会によって固有の文化がある。この授業では、民族・地域・社会の構成員の多数派（マジョリティ）となったメインカルチャーと、メインカルチャーの下位に潜伏する比較的少数派（マイノリティ）の比較を行い、特に日本のサブカルチャーについて、深く考え、議論し、より豊かな教養を身に着けることを目的とする。以上の内容を講義形式で行う。	
	演劇論		「多様な他者とイメージを共有し、価値観の差異を認め共同体を維持するために生まれた歴史ある芸術」（引用「ともに生きるための演劇」平田オリザ著）である「演劇」の創作や上演に至る過程を学び、演劇に関する知識を獲得する。また、必要に応じてコミュニケーションのワークショップを取り入れ、社会的情緒スキル（「長期的目標の達成」「他者との協働」「感情を管理する能力」）を高めることを目的とする。以上の内容を講義形式で行う。	
	食と健康		（概要） 本講義では、食と健康に関する諸問題や健康に生きるための食生活のあり方を講義形式で学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （29 尚 爾華／5回） 基礎から学ぶとともに、アレルギー、動脈硬化、ガン、糖尿病等の生活習慣病、さらには食の安全性など、食と健康をとりまく重要な問題について考える。 （51 香川 貴江／10回） 若年女性層では、やせ過ぎも問題になっている。肥満とやせの予防とコントロールのための食生活について学ぶ。日本人の食生活の変遷と疾病構造を分析し、食と健康のかかわりへの関心を高める。	オムニバス方式
	わたしたちの身体		人体の構成成分と栄養素についての基本的な知識を習得する。体を作る要素及びエネルギー源としてのタンパク質、炭水化物、脂質と、機能を調整するミネラルなど基本的な栄養成分の他、栄養成分を摂取し、消化・吸収するメカニズムを学習する。また、基礎代謝の概念とその影響因子、自身の基礎代謝の求め方を習得し、わたしたちの身体の構成成分と生理機能に関する包括的な理解を習得することを目的とする。以上の内容を講義形式で行う。	
	高齢社会論		高齢化社会における社会問題の発生状況および高齢者にかかわる社会福祉問題について理解し、老人福祉の理念、政策目標、現行の高齢者福祉施策の体系、具体的実践活動の展開過程（職域・サービス供給組織等）に関する理解を深めることを目的とする。また、人口高齢化や高齢者問題が、今日の社会や家族にどのような影響を及ぼし、我々の生活にどのように関わるのか、21世紀の高齢社会を見据えた高齢者福祉のあり方について解説する。さらに現代社会における高齢者の実態、社会的ニーズと制度・政策について解説する。以上の内容を講義形式で行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合 教養 科目	カル チャ ー	福祉と社会	社会には、福祉的支援を望む人と望まない人、更には福祉的支援を知らない人たちがいる。実社会では、自分たちの生活に必要な制度についてはあまり知られていない。また、福祉的制度を利用することを恥ととらえる概念だったり、自分より不幸な人に使って欲しいと誤った考え方の人もいる。そんな人たちが福祉的制度を受けたいのに受けられない人に対して伝えることから興味や理解することにつながる人もいる。そのような人々への支援を紹介していくことが福祉従事者であるといえる。理解されるためには、適切なサービス制度や各支援の基本的対応を理解することが必要である。本授業は、社会生活を行うにあたり様々な事例や事柄を通じて物事の課題と解決として利用者へのより良い支援の懸け橋を行うことを目的とする。以上の内容を講義形式で行う。	
	リ ベ ラ ル ア ー ツ 科 目	宗教と社会	本授業の目的は、私たちの生きている社会と宗教とのかかわりについて学ぶことである。私たちは宗教についてどのくらい知っているだろうか、またどのように受け止めているだろうか。宗教に対する誤解から理解へと深め、これから幅広い分野で活躍する人材として、多文化社会における他者への理解ある、思いやりのある心を養い、自分自身への探究心を持ち、今世を生きていくための視座を持つことを目的とする。以上の内容を講義形式で行う。	
		国際組織論	多国籍企業は多くの国・地域で事業活動を行うため、3種類の管理課題に直面する。各国・各地域への適応、事業（職能）の世界的な調整・統合そして海外子会社のマネジメントがそれである。本講義は、多国籍企業の管理課題を組織（構造）から分析する。まず、適応、調整・統合とよばれる管理課題をI-Rフレームワークで把握する。次に、国際経営を4つのタイプに分類し、それぞれの特徴と組織モデルを確認する。ここではトランスナショナル経営、組織形態と組織構造の決定要因に注目する。最後に、海外子会社のマネジメントを学ぶ。親会社と海外子会社の役割・権限・責任、集権と分権、調整メカニズム、組織文化などを確認する。また多国籍企業の管理と組織に関わる理論的な枠組みを学ぶことで国際経営の全体像を理解する。	
		ジェンダー論	社会は男と女に異なる役割を期待し、その中で当の男女もそれが当たり前と思い込んでいたりする。このような、社会が作った男女の性別をジェンダーと言う。ジェンダーを作り出し、再生産している社会と文化の構造を明らかにするとともに、ジェンダーの呪縛から、男女ともいかにして自己解放を図るかを考え、差別のない社会の実現を模索することを内容とする。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識の獲得を目標とする。以上の内容を講義形式で行う。	
		環境リテラシー	人類にとって重要な課題になっている地球環境問題を理解するために、地球環境のしくみを基礎から考えていく。地球環境をシステムとして捉え、大気圏・水圏など各サブシステムの構成・起源・進化、その中での熱や物質の流れといったものを理解し、それらを基に現在問題となっている各種の地球環境問題を考えていく。図表を多用して理解できるよう努めていく。そのため与えられたグラフや表に示されるデータの科学的意味を正しく説明することができることを到達目標とする。	
		地震と安全	①地震を起こす原動力となっているプレート・テクトニクスについての解説。②震源、震央、震度、マグニチュードなど地震の基礎的事項の解説。③個々の地震は活断層に沿って大地がずれることによって起こるが、この活断層について解説。④日本列島および周辺の主要な活断層の解説。⑤日本列島および周辺で起こった主要な（巨大）地震について解説。⑥想定される南海トラフの巨大地震などに備えて国や地方公共団体などが施すべき防災・減災・安全対策（地震動や津波などへの対応）を検討。⑦巨大地震に備えて地域・家庭や個人の心構えと安全対策などを検討。以上の内容を講義形式で行う。	
		日本の文化	この「日本の文化」は留学生を対象とした授業である。授業名の通り、日本の文化に関して理解することを目的とするが、その根底の学びは「異文化理解」にある。具体的には、名古屋周辺地域の祭を含む地域文化を中心に、授業を展開する。また、外部講師による講義も予定している。シラバスに含まれない内容についても、自分たちが積極的に実際に見たり体験したり挑戦してみることが期待される。以上の内容を講義形式で行う。	

授 業 科 目 の 概 要						
(経営学部ビジネス学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教養科目	リベラルアーツ科目	カルチャー	健康・スポーツ実習		本科目では、主に「スポーツの楽しさ」を、実習と講義を通じて学ぶ。「スポーツを楽しむこと」を経験することは、生涯にわたって自らスポーツに親しむ素地となり、また、指導者として運動やスポーツに携わるための重要な経験となる。また、講義と実習を行うことによって、それぞれの種目に対する理解をより深めることができる。講義では、各種目の歴史と特性を理解し、チームで勝利するための戦術や方法・方策を考える。実習では、自らの技術の向上を目指すだけでなく、講義で学んだ知識をもとに、チームのメンバーと協力・協働しながら、チームの目的を達成するために、課題を見つけ、その解決方法を実践的に学ぶ。	実習44時間 講義16時間
			スポーツ実技（フィットネス&エアロビ）		本科目では、主に「スポーツの楽しさ」を、実習を通じて学ぶ。「スポーツを楽しむこと」を経験することは、生涯にわたって自らスポーツに親しむ素地となり、また、指導者として運動やスポーツに携わるための重要な経験となる。集団で行動すること、集団で目的を達成するための課題や解決方法を実践的に学ぶことで、コミュニケーション能力、リーダーシップの修得を目指す。本科目では、「フィットネス」と「エアロビ」に焦点をあて、実技形式で行う。	
			スポーツ実技（ストレッチ&ヨガ）		本科目では、主に「スポーツの楽しさ」を、実習を通じて学ぶ。「スポーツを楽しむこと」を経験することは、生涯にわたって自らスポーツに親しむ素地となり、また、指導者として運動やスポーツに携わるための重要な経験となる。集団で行動すること、集団で目的を達成するための課題や解決方法を実践的に学ぶことで、コミュニケーション能力、リーダーシップの修得を目指す。本科目では、「ストレッチ」と「ヨガ」に焦点をあて、実技形式で行う。	
			スポーツ実技（マシントレーニング）		本科目では、主に「スポーツの楽しさ」を、実習を通じて学ぶ。「スポーツを楽しむこと」を経験することは、生涯にわたって自らスポーツに親しむ素地となり、また、指導者として運動やスポーツに携わるための重要な経験となる。集団で行動すること、集団で目的を達成するための課題や解決方法を実践的に学ぶことで、コミュニケーション能力、リーダーシップの修得を目指す。本科目では、「マシントレーニング」に焦点をあて、実技形式で行う。	
			スポーツ実技（球技）		本科目では、主に「スポーツの楽しさ」を、実習を通じて学ぶ。「スポーツを楽しむこと」を経験することは、生涯にわたって自らスポーツに親しむ素地となり、また、指導者として運動やスポーツに携わるための重要な経験となる。集団で行動すること、集団で目的を達成するための課題や解決方法を実践的に学ぶことで、コミュニケーション能力、リーダーシップの修得を目指す。本科目では、「球技」に焦点をあて、実技形式で行う。	
	スキル科目	コミュニケーション・思考	アカデミックライティングⅠ		大学での学修に必要なコミュニケーション能力（伝える力・受けとめる力）とライティング能力（客観的な文章を書く力）を身につけるため、実践的な日本語の表現活動を課題（タスク）ベースで進めていく。タスクは受講生同士の対話、つまりピア活動を通して行う。現代日本語の文法の構造を理解し、正確な文が書けること、批判的思考能力を養いながらブック・レポートを作成することを目指す。以上の内容を演習形式で行う。	
			アカデミックライティングⅡ		「アカデミックライティングⅠ」で習得した客観的な文章を書く力をさらに向上させる。大学での学びに不可欠なアカデミックライティングの表現と特徴を理解し、実際にレポートを書くという体験を通してライティングのスキルを身につける。具体的には、意見文や評論のスタイルに慣れ、資料を読んでまとめる過程を通して、大学生らしい問いが立てられ、根拠に基づいた主張が展開できるようにする。以上の内容を演習形式で行う。	
			プレゼンテーション技術		プレゼンテーション技術は「ただ伝えるだけ」の技術ではない。相手に理解してもらうこと、そして行動してもらうことが大切である。まずは、学生がゼミでの発表やミーティングの場、クラブやサークルなどの課外、そして就職活動での面接の場で自分をPRする時などに、相手に納得してもらう技術を身につけることが目標である。さらに相手に行動を起こしてもらうために必要な知識やスキルの習得を目指す。スライドの作成スキルなどを学ぶだけでなく、グループワークや発表の場を盛り込み、学生同士のコミュニケーションを重視したロールプレイングによる演習形式の授業を展開する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合 教養 科目	スキ ル 科 目	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ 思 考	クリティカル・ロジカルシンキング	
			システム思考入門	主要授業科目
	語 学		英語Ⅰ	
			英語Ⅱ	
			英語Ⅲ	
			英語Ⅳ	
			英語オーラルコミュニケーションⅠ	
			英語オーラルコミュニケーションⅡ	

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合 教養 科目	ス キ ル 科 目	語 学	中国語総合Ⅰ	中国語を初めて学ぶ学生を対象とする。はじめに中国語を学ぶ上で必要な基本知識について学ぶ。具体的には、中国語に関する知識（使用されている地域・人口・民族・歴史など）、文字（中国大陸で使用される簡体字と日本の漢字の違い）、基本構文（動詞述語文・名詞述語文・形容詞述語文など）などについて学ぶ。教科書は映像資料のついたものを使用して、楽しく、かつ実際に使用される場面が理解しやすくなるよう工夫する。それと同時に、中国文化に関する理解と関心を高める配慮をする。以上の内容を演習形式で行う。
			中国語総合Ⅱ	主に「中国語総合Ⅰ」レベルの内容を習得済みの学生を対象とする。「中国語総合Ⅰ」で行った授業の内容を踏まえて、さらに多くの構文や表現を学ぶ。実際に学生一人一人が練習したり問題を解く時間を多くとる。教科書は映像資料のついたものを使用して、楽しく、実際に使用される場面が理解しやすくなるよう工夫する。またそれと同時に、中国文化に関する理解と関心を高める配慮をする。以上の内容を演習形式で行う。
			中国語オーラルコミュニケーションⅠ	中国語を初めて学ぶ学生を対象とする。はじめに中国語の学習を進めていく上で必要な発音の基礎の習得を目標とする。具体的には、中国語の発音表記方法であるピンインシステムが理解でき、読めるようになることが目標である。学んだ発音をもとに簡単な一語文や挨拶が言えるようにする。また、中国の文化、習慣についても学び、学んだ知識を実際の会話に応用できるようになることを目指す。以上の内容を演習形式で行う。
			中国語オーラルコミュニケーションⅡ	主に「中国語オーラルコミュニケーションⅠ」レベルの内容を習得済みの学生を対象に、簡単な会話ができるなど初級程度のオーラルコミュニケーション能力を養成することを目標とする。できるだけ学生一人一人が練習する時間を多くとる。また、様々な角度から、中国の風俗・習慣・文化に対する理解が深められるようにする。学んだ中国語の知識を実際の会話に応用できるようになることを目指す。以上の内容を演習形式で行う。
			韓国語入門	主に韓国語を初めて学ぶ学生を対象とする。この授業では、まず韓国語の基本構文の全般的な習得を目指す。具体的にははじめに文字を一通り学んだうえで、挨拶の表現、動詞の活用の練習などをする。読み書きを中心にそれらの適切な使用方法を学んでいくことを目標とする。また、韓国の文化、習慣についても学び、学んだ韓国語の知識を実際の言語運用に応用できるようになることを目指す。以上の内容を演習形式で行う。
			スペイン語入門	主にスペイン語を初めて学ぶ学生を対象とする。この授業では、まずスペイン語の基本構文の全般的な習得を目指す。具体的にははじめに文字を一通り学んだうえで、挨拶の表現、動詞の活用の練習などをする。読み書きを中心にそれらの適切な使用方法を学んでいくことを目標とする。また、スペインの文化、習慣についても学び、学んだスペイン語の知識を実際の言語運用に応用できるようになることを目指す。
			フランス語入門	主にフランス語を初めて学ぶ学生を対象とする。この授業では、まずフランス語の基本構文の全般的な習得を目指す。具体的にははじめに文字を一通り学んだうえで、挨拶の表現、動詞の活用の練習などをする。読み書きを中心にそれらの適切な使用方法を学んでいくことを目標とする。また、フランスの文化、習慣についても学び、学んだフランス語の知識を実際の言語運用に応用できるようになることを目指す。
			ポルトガル語入門	主にポルトガル語を初めて学ぶ学生を対象とする。この授業では、まずポルトガル語の基本構文の全般的な習得を目指す。具体的にははじめに文字を一通り学んだうえで、挨拶の表現、動詞の活用の練習などをする。読み書きを中心にそれらの適切な使用方法を学んでいくことを目標とする。また、ポルトガルの文化、習慣についても学び、学んだポルトガル語の知識を実際の言語運用に応用できるようになることを目指す。
	A I I リ・デ ラ シ ー	数 理 の 世 界		数学的活動を通して、図形や数量についての基礎的な知識及び技能を身に付ける。筋道を立て、粘り強く考え、数学的に表現する力を養う。そのため数式だけでなく、具体物を使って学習する。受講生一人ひとりが、グラフを使ったり、作図をしたり、折り紙を折ったり、作品づくりをしたりして、能動的に学修する機会とする。自然科学の発展に、数学の知識は不可欠である。数学の応用面について言及して、数学の実用性を理解する。また、定理・法則を発見するきっかけとなった出来事を踏まえて、数学の歴史についても適宜、言及する。

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合 教養 科目	数 理 ・ デ ー タ サイ エ ン ス ・ A I リ テ ラ シー	確率と統計	現代社会の中でさまざまなに使われている統計データと統計学知識について、一般教養レベルで知っておくことが望ましいと思われる事柄を、分かり易く、具体例をあげながら解説する。「何を調べたいのか」「そのために必要な分析手法は何か」「分析結果をどう理解するか」が重要である。あらゆる分野（経済学・経営学・社会学・心理学・医学など）で勉強する回帰分析までを理解できることを到達目標とする。以上の内容を講義形式で行う。	
		PC・ネットワーク入門	この授業では、現代社会での必須の技能となっているコンピュータを使った情報の読み書きの術を習得していくこと、またネットワークの仕組みを理解することがこの科目の目的である。特に、ワープロを用いた文章作成、電子メールを使った情報の交換、Webを用いた情報検索・情報発信の方法の基礎、電子メールやWWWによる情報検索について学習し、それをマスターすることが目標である。今後の大学での学習を円滑に進めるためにも、これらを十分に理解しておくことが必要となる。以上の内容を演習形式で行う。	
		データリテラシーⅠ	この授業では「PC・ネットワーク入門」の履修を前提にして、現代社会での必須の技能となっているコンピュータを使った情報の読み書きの術を習得していくことがこの科目の目的である。特に、図形の描画、表計算ソフトウェアを用いた数値整理・グラフ作成、プレゼンテーションソフトウェアを用いた資料作成の基礎を学習し、それをマスターすることが目標である。今後の大学での学習を円滑に進めるためにも、これらを十分に理解しておくことが必要となる。以上の内容を演習形式で行う。	
		データリテラシーⅡ	データリテラシーとは、スキルやレベル、使用するツールにかかわらず、データを読み、使い、分析し、議論する能力を意味する。本授業では、社会人になって、必要とされるであろうデータリテラシーを想定して、データ収集から整理、分析、それらを踏まえた予想や予測について演習を通して一連の流れを理解することを目指す。そして統計分析についての基礎を学修し、データの比較や変化をExcelなどのツールを使ってなどを通して体験し、物事をデータに基づいて考える姿勢とデータに基づいて思考する力を身につける。本講義は「データリテラシーⅠ」で修得したスキルレベルを要求する。以上の内容を演習形式で行う。	
		AIリテラシー	（概要） 社会および日常生活の中でAIが活用されている場面が多くある。そこで本科目ではまずコンピュータの基礎的な概念について解説した後、AIの活用や技術についての基礎を学習する。 （オムニバス方式／全15回） （24 宮城 エステバン／8回） AIの歴史や活用領域の広がりについて学習するとともに、機械学習や深層学習に関する基礎知識と展望についても学習する。人間の知的活動である認識、予測・判断、言語・知識、身体・運動の各領域とAI技術について学習する。 （33 正岡 元／7回） AIについて学習する基礎となるコンピュータの基礎的な概念について学習する。特にコンピュータの動作原理やアルゴリズム、インターネット社会の危険性についても学習する。	オムニバス方式
	ライフ デザ イン 科目	ライフデザイン	自分の生涯にわたるキャリアをライフキャリアという。ライフキャリアについて自分が納得感を持ち、自分の個性を認識しデザイン（設計）することがライフデザインであり、キャリアの基礎となる。この授業では、多様な分野からゲストスピーカーを招く。個人と社会との関わり、働くことの意味を考え、自分のことや世の中の仕事をよく知り、自分の将来を主体的に探り、表現していこうとする態度を養う。特に、自己管理を意識し、自己決定を積み重ねながら行動できるようにすることを目的とする。以上の内容を講義形式で行う。	
		キャリア基礎	3年時から本格的に始まる就職活動へ向け、1年時に基礎的な能力を高めるための授業である。次年度以降も続くキャリア形成のための自己の能力開発、とくに基礎学力向上のための半期間の目標設定と実行のためのプランニングを行う。具体的には、企業の採用選考の中で多く用いられる適性検査について、実際の問題に取り組むことで理解を深める。授業期間終了後も主体的に取り組むことができるよう、継続的な目標設定に対するプランニングも行う。以上の内容を演習形式で行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合 教養 科目	キャリア 形成	キャリアプランニングⅠ	キャリアを形成するには、産業構造を理解し、自らがその分野・領域で社会生活を営んでいくのかを選択する必要がある。3年生前期にはインターンシップという貴重な機会を控え、それ以前に自らの方向性を定められることを目標とし、産業構造の知識と理解を深めることを目的とする。そのため、自身の将来を主体的に考え、表現し、行動できるようにすることを授業の到達目標とする。以上の内容を演習形式で行う。	
		キャリアプランニングⅡ	キャリア・プランニング・プロセスにおいて、納得できる進路先を見つけ、早期の進路決定のための重要な要素を説明する。とくに、インターンシップ参加時や就職活動において絶対に必要な「自己PR作成」や「企業研究」については、実践的なワークを通じて理解を深め、スキル向上を図るための支援を行う。またグループディスカッションやマナー等にも触れ、雇用情勢が厳しい状況においても、しっかりとした結果を残すための具体的な対策を行う。以上の内容を演習形式で行う。	
		リーダーシップ入門	この授業は、履修者のリーダーシップ養成を目的とする。以前はリーダーシップというと企業幹部向けの教育が主流だった。しかし、現代では企業を問わずあらゆる組織に適用されるものであり、その対象もトップからメンバーに至るまでリーダーシップが求められる。そして、特に世界的な視野でみると、とりわけ日本ではその必要性が高い状況である。その理由に踏み込みながらリーダーシップ発揮の方法を修得する。以上の内容を講義形式で行う。	
		アントレプレナーシップ入門	アントレプレナーシップの起業活動を除いた心理的領域を扱い、ビジネスパーソンに必要な行動様式（エートス）を考える。具体的には、シュンペーターから始まるイノベーション（新機軸）理論からドラッカーの起業家理論の流れを講義すると共に、第三次産業における情報技術（IT）を中心とする起業家の思考方法について深く掘り下げる。また、それらの経営者の台頭によって生じる働き方の変化に対して、組織心理学や組織行動論などの知見を参照し、その適応について考えを巡らす。本授業で目標とすることは、時代変化を理解し、裁量労働をはじめとするエートスの変化を認識すると同時に促進することである。以上の内容を講義形式で行う。	
	就業 体験	キャリア体験	就業体験に必要な基本的な常識とマナーなど、実習先職場を確定するために必要な知識・技能を習得する。具体的には、実習前に就業体験の意義と目的・内容、ビジネスマナー、実習の際の留意事項などを学び、各自の専攻、将来のキャリアに関連した実習先を決定する。実習後には、実習の体験を各自でまとめ、報告会・反省会などの体験交流から学び、自らの今後のキャリアについて自己決定する。なお、この授業は演習形式で行うが、グループワークやグループ内でのプレゼンテーション等も積極的に取り入れていく。	
		キャリア体験実習A	事前指導の後に、一般企業やNPOなど各自で決定したキャリア体験先において就業等の実習を行い、各自で立てた目標を達成する。体験内容は実習先によって異なるが、日々の業務等の内容を理解しつつ実習先の担当者から指導を受ける。夏期あるいは春期休暇中の短期型キャリア体験（5日間程度）を済ませた後にレポート等の提出をする。「社会で働く」等の実体験を経験し、自らのキャリアについて自己決定できるようにする。以上の内容を実習形式で行う。	
		キャリア体験実習B	事前指導の後に、一般企業やNPOなど各自で決定したキャリア体験先において就業等の実習を行い、各自で立てた目標を達成する。体験内容は実習先によって異なるが、日々の業務等の内容を理解しつつ実習先の担当者から指導を受ける。夏期休暇中の2週間前後のキャリア体験（標準的には、土、日を挟んで実質10日間）を済ませた後にレポート等の提出をする。「社会で働く」等の実体験を経験し、自らのキャリアについて自己決定できるようにする。以上の内容を実習形式で行う。	
		キャリア体験実習C	事前指導の後に、一般企業やNPOなど各自で決定したキャリア体験先において就業等の実習を行い、各自で立てた目標を達成する。体験内容は実習先によって異なるが、日々の業務等の内容を理解しつつ実習先の担当者から指導を受ける。長期休暇中を中心とするキャリア体験（例えば、1社で1か月間）を済ませた後にレポート等の提出をする。「社会で働く」等の実体験を経験し、自らのキャリアについて自己決定できるようにする。以上の内容を実習形式で行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	基礎 科 目	経営学Ⅰ	（概要） この講義は、大学に入ってはじめて経営学を学ぶための入門的役割を果たす。経営学を学ぶ上で必要な基礎的な知識の習得を目的とし、講義形式で授業を行う。 （オムニバス方式／全15回） （7 田村 豊／5回） 経営学の成り立ちとその歴史的背景について学習する。特に経営学の基礎を学ぶために、企業組織、企業経営の進め方、給与、企業と社会の関係など経営学の基礎的知識を学ぶ。 （13 金 良泰／10回） 企業組織の基本的構造と部組織の役割、経営者の役割と責任、企業戦略の立案、日本企業の組織的特徴、企業の社会的責任などが主要な項目である。現在、企業活動が複雑になっており、企業活動の国際化、経営者の社会的責任、市場機能の拡大など、今日の経営活動を知る上で欠かせないテーマも積極的に取り上げ講義を進める。	主要授業科目 オムニバス方式
		経営学Ⅱ	（概要） 「経営学Ⅰ」を基礎に、「経営学Ⅱ」では経営学の基本学説や諸理論について学び、企業経営に必要なこととは何かを考えていく。あわせて、日本企業だけでなく海外企業の諸問題について考察することで様々なものの見方・考え方を培っていく。 （オムニバス方式／全15回） （7 田村 豊／5回） 日本の経営はどのように確立されてきたかを認識し、それがグローバル化の中でどのような変化を遂げているかを理解する。また企業における人・モノ・お金・情報の各経営資源の特質をふまえて、諸問題について説明する。 （13 金 良泰／10回） グローバル化した企業がどのような経営をおこなっているかを実例から学ぶ。取り上げる産業は、自動車産業・IT産業を中心とする。また、海外企業も取り上げ、その戦略がどのようなものであるかを学ぶ。授業は、アクティブラーニングを取り入れながら行う。	主要授業科目 オムニバス方式
		経営管理論	（概要） 本講義は経営管理の重要な内容を簡潔に解説していく。経営管理論の全体像を理解し、なぜ企業には経営管理が必要であるかについて解説する。また、日本企業と海外の経営管理の特徴等について解説する。 （オムニバス方式／全15回） （7 田村 豊／5回） 「経営学Ⅰ」と「経営学Ⅱ」では経営学の基礎知識を習得したが、「経営管理論」では経営活動における経営理念から開始される経営活動のプロセス行動の立案、部門管理機能、経営者のガバナンス機能の内容を、より詳細に経営活動を検討していく。 （14 Tran Thi Tuyet Nhung／10回） 企業活動のグローバル化を具体的に学習するために、ケーススタディ形式で国際経営のビジネスモデルの構築と経営戦略の背景などについて解説を行い、経営活動をより実践的に学んでいく。	主要授業科目 オムニバス方式
		入門マーケティング	「マーケティング」は誰しもが聞いたことがある言葉だが、「何がマーケティングなのか？」と問われると、社会人を含めて「わからない」と答えることが多い。そこで、本授業では初学者向けに商行為における「マーケティング」的な要素を抽出して指摘できるような基礎知識の装着を目的とする。具体的な事例を紹介し、その事例から得られる教訓を学ぶ。また、その教訓をさらに抽象化した理論についても触れ、マーケティングを学術的に捉える意義の理解を目指す。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	基 礎 科 目			
	ブランド構築論	○	ブランドとは単なる高級品（いわゆるブランド品）や広告などのイメージでもない。ブランドは企業経営にとって、人、モノ、金、情報に次ぐ第5の資源である。ブランドに力がある企業、団体は、将来にわたり安定的な成長を見込むことができる。授業では、ブランド戦略にとどまらず、企業活動においてブランド戦略がマーケティング戦略、プロモーション戦略などどのように関連するかなどを分かりやすく説明する。また、様々な分野のブランドを分析し、確固たるブランドになるためにはどんな要素が必要か、何をしなければならぬかを考える。	主要授業科目
	イノベーション入門	○	「イノベーション入門」ではイノベーションの定義、イノベーションがなぜ生じたのか。どのような条件においてイノベーションは生じるのかなど、イノベーションについての一般的知識を習得し、現在社会におけるイノベーションの変化について考察する。具体的には企業、地域、さらに国レベルなどで取り組まれたイノベーションの事例、また政策の展開について事例を紹介し、これからの社会が必要とするイノベーションの方向性を知ること目標とする。	主要授業科目
	学びの基礎Ⅰ	○	経営学部では、現代社会のさまざまな分野で活動・活躍するために必要な基礎的な能力を見に付ける学修を、系統的に諸科目で行っている。この「学びの基礎Ⅰ」では、それらの科目での学修をより効果的に進めるための真の意味で「学びの基礎」となる知識・能力の確認と修得を目指す。各回の授業では、ビジネスに関連する新聞の社説などから漢字の読みを学び、一方でビジネスの世界では必要不可欠な数量的データの扱いに関する学びを、真の基礎から学んでいく。	主要授業科目
	学びの基礎Ⅱ	○	経営学部では、現代社会のさまざまな分野で活動・活躍するために必要な基礎的な能力を見に付ける学修を、系統的に諸科目で行っている。この「学びの基礎Ⅱ」では、それらの科目での学修をより効果的に進めるための真の意味での「学びの基礎」となる知識・能力の確認と修得を、前期開講の「学びの基礎Ⅰ」の一段上のレベルで目指す。各回の授業では、ビジネスに関連する新聞の社説などから漢字の読みを学習し、一方でビジネスの世界では必要不可欠な数量的データの少しだけ応用的なレベルでの扱いに関する学びを進めていく。	主要授業科目
	会計学入門	○	この授業では、初めて会計学を学ぶ学生を対象とした入門的な講義として簿記の視点からまず企業活動における取引記録の一連のプロセスとその意味を理解することから始める。次に、どのように企業活動における諸取引が記録されるのか、またそのことは利益計算にどのような影響するのか、などの基本的な知識を伝達する。さらに、取引の記録がどのようなプロセスで決算書を作成するのかを紹介し、決算書における諸取引の意味を説明する。	主要授業科目
	現代経済学	○	この授業では、現代経済の仕組みと動きを考えるために最小限必要なレベル＋α（プラス・アルファ）の経済学を講義する。具体的には、一般に経済基礎理論にはミクロ経済学とマクロ経済学があるとされているが、そのうち後者（マクロ経済学）のエッセンスをじっくりと講義する。受講生には、完璧に理解してもらえるように、下記テキストに即した授業プリントを毎回配布し、受講生の理解度を確認しながら進めていく。	主要授業科目
基 幹 科 目	地域ビジネス概論	○	地域でビジネスを行う上での「形態」と「組織」には多様な選択肢がある。この授業では、地域ビジネスの「形態」と「組織」について、多くの具体的な事例を交えて理論的かつ実践的に学ぶ。「地域ビジネスの形態」では、多様な企業の業種・職種、個人事業主、法人、起業家、公共サービス等のそれぞれの特徴と実態を学ぶ。「地域ビジネスの組織」では、大企業と中小企業、NPO法人、公益法人等、経済団体、行政関係機関等のそれぞれの特徴と実態を学ぶ。社会には、地域ビジネスの多様な「形態」と「組織」があることを理解して専門分野の学習基盤を作るとともに、適切な進路選択や実践の一助とする。必要に応じて、各回で時事問題、就活情報等も紹介する。	主要授業科目
	観光ビジネス論	○	観光は、身近なレジャーであるだけでなく、国も力をいれる重要なビジネス・産業である。また「観光学」として学問の対象にもなっている。この講義ではそんな観光について、職業として、そして学問として考えていくための基礎的な知識、大学における観光についての学びを解説し、観光学の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、観光関連用語、観光の歴史、観光の効果などの観光全般に関する基礎知識を学んだうえで、旅行業や現代の観光ビジネスの潮流、商品となる“観光地”の特徴や観光サービスなど、観光ビジネスに関わる基礎知識を講義形式で学ぶ。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	基 幹 科 目			
	グローバルビジネス論	○	グローバルビジネス論では、企業や個人が、さまざまな国や地域のステークホルダーに対応して良好な関係構築を行い、業務遂行している現状と課題を講義する。グローバルビジネスの現状と課題を理解することが目標である。授業は、講義形式で行うが、パワーポイントと配布資料を利用する。また、グローバルビジネスに関するビデオ番組のケースを紹介し、現状と課題を理解する。理解度を確認するために授業中にディスカッション・タイムやレポート提出を導入する。	主要授業科目
	消費者行動論	○	この授業では消費者の選択行動について理論習得することを目的とする。まずは、消費者行動を整理し、購入に至る意思決定プロセスの基本理論を理解する。具体的には、AIDMA・AIDAS・AISAS等の様々なモデルをはじめ、消費者行動理論の学問的背景を理解する。さらに、消費者行動分析をマーケティング戦略とブランド戦略の双方から習得する。また、グローバル化に伴う多文化理解による消費者行動の違いについても学ぶ。	主要授業科目
	ビジネスプランニング	○	産業構造の転換や企業間競争の激化に伴い、変革スピードを求められる企業では、新規事業開発の必要性が従来以上に高まっている。ビジネスの企画・立ち上げは、今後多くの人にとって必要なスキルとなると考えられる。そこで、この授業は企業での新規事業立ち上げ（企業内起業）を前提とした企画スキルの装着を目的とし、ビジネス（事業内容面、採算面）の計画技法と、その内容を経営層に提案するための事業計画書作成の技法を学ぶ。	主要授業科目
	現代広告論	○	企業・団体・組織のマーケティング戦略上プロモーション戦略として重要な要素である。中でも各情報メディアを駆使しての広告コミュニケーションは対象者の購買・利用意思決定上大きな役割を果たしている。授業ではマーケティング戦略上の広告コミュニケーションの役割を理解したうえで、実際の企業がどのように広告戦略を立案しているかを学ぶ。また、時代と広告の関係性について考察し広告の文化的役割についての理解を深める。	主要授業科目
	ビジネス統計学	○	ビジネスの現場で何らかの意思決定を行うに際して、関連するデータを集めて分析し、得られた情報を参考にするのは最早ありふれたシーンと言える。その際、集めたデータから必要となる情報を切り出して、その情報から有意な結論を導きだすために、またそもそも、データの集め方をデザインするために統計学の知識は不可欠である。この「ビジネス統計学」では、統計学の基本的な概念を理解することを目標とする。社会科学における量的・質的データを、表計算ソフト等を用いて実際に分析して必要な情報を抽出し、更にそれを第三者にプレゼンテーションできる能力を身に付けることを到達目標とする。	主要授業科目
	営業データ論	○	日々の営業活動をはじめとするビジネス活動からは、売上明細データ・顧客データ・在庫データなど膨大な量のデータが生まれる。現代のビジネスシーンにおいて、これらのデータは問題の発見や要因分析、対策立案に活用され、事業の改善・拡大に寄与している。本講義では企業経営にとって必要となるいくつかの数値を参考にしながら、とりわけ営業活動に必要となるデータの解説を行っていく。実際にデータを使った統計分析（重回帰分析、コンジョイント分析）を行ない、その結果を活用して適切な営業方針を自分の提案として発信できる能力を身に付けることを到達目標とする。	主要授業科目
	経営戦略論	○	経営戦略は、企業の長期的な基本方針を決めることであるが、今日の日本企業の経営戦略と組織構造を理解することを講義の目標とする。講義では、日本企業の経営戦略と組織構造の理解を深めるために、アメリカ企業の経営戦略と組織構造を比較する。また、経営戦略の具体的なイメージをつかむためにビデオ番組を利用して、受講生の感想や意見を交換する。授業は、パワーポイントと配布資料を利用した講義形式で行うが、理解度を確認するために授業中にディスカッション・タイムやレポート提出を導入する。	主要授業科目
	経営組織論	○	経済・経営における中心的存在である組織についての基本概念、人との関わり合い、設計・運営、リーダーシップなどについて実践的な知見を深めることを目的とする。グローバル化が著しい昨今において、安定を目指すのか変革を目指すのかといった二者択一のような簡単な状況ではない中で、組織の強みを最大限活かすための方策を意思決定するには何が必要なのか、総合的に考察する。講義形式で行うが、受講者の意識を高めることが重要であることから、グループ・ディスカッションも適宜取り入れていく。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要					
(経営学部ビジネス学科)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	展 開 科 目	会計学		この授業では会計学の基礎的知識を身に付けて、決算における貸借対照表と損益計算書の役割とその意味を理解することを目指す。第一に、会計の役割と企業会計制度との関係について学ぶ。次に、利益計算の原則とルールについて学ぶ。これらの会計の基本を理解した上で、具体的に貸借対照表と損益計算書における資産、負債、資本、収益、費用の論理とその意味について学ぶ。	
		金融論		「金融」という現象の基本的な仕組みを理解し、それにより現実の金融システムで起きている現象を考察・評価できるようになることを目指す。そのために前半では、日常生活において我々が使う現金や預金が経済の中で果たしている役割や金融システムという概念など、金融論とその派生科目を学んでゆく上で必要となる基礎知識について解説する。後半では金融システムをより深く理解するため「金融市場の現実」をテーマに、日本や米国などの特定の金融市場について解説する。併せて学科の目的に鑑み、金融実務についての解説も行う。講義形式を基本とする。	
		ビジネス財務論		この講義では、ビジネス財務とは何かを理解するために基本的知識の習得からはじめる。そのために、財務活動を理解する上で必要となる財務諸表の基本の視点はなにか、また財務管理の基本の視点はなにかの両面から基礎知識を伝達することとする。さらに、難解なビジネス財務を十分に理解し、会社で働くだけでなく、経営者としてその活動を実践できる能力を身に付けることを目標とする。	
		日本経済論		日本経済の概要・特徴を多面的に捉え、日本経済が直面する課題に対して主体的な関心を持ち、その解決方法を考察できるようになるための基礎を身につけることを目指す。そのために、財政と金融、社会保障、労働市場、企業行動、国際経済、地域経済など各論について経済学の基本的な考え方を解説し、理解してもらう。併せて考察レポートの作成を通じて、各種データ・資料を自分で探して利用できるようになってもらう。講義形式を基本とする。	
		生産マネジメント論		この「生産マネジメント論」では、生産管理の骨格を理解するために、生産管理行動の管理上の特徴を経営学の他の分野との関係から概説し、生産管理行動の特質を解説する。また、技術的發展の歴史とヨーロッパ、アメリカなどでの生産管理の展開過程を踏まえ、日本企業での生産管理の特徴を理解することを目的とする。現在進んでいるインダストリー4.0、日本企業の海外進出など、これからの日本企業の展開を想定し、これからの日本的生産管理の方法や課題を検討する。	
		人的資源管理論		企業では人的資源の基本的特徴を日本企業を事例に理解し、これからの時代にとってどのような人材が必要であり、どのような人材活用が求められているのか理解できることを目的とする。そこでこの「人的資源管理論」では、日本企業での人的資源の考え方や利用の方法を概観するだけでなく、企業での人的資源管理と社会の関係に視点を広げて解説し、これからの人材活用の展開方向を理解できることを目標とする。	
		企業とコンプライアンス		この講義は、実際のビジネスで生じる様々な事例をもとに、企業におけるコンプライアンス事例を紹介し、受講者とともに解決の方針や方法を考える。就職や起業を間近に迎える受講者に対して、ビジネスの場で、自らの力でコンプライアンスの課題に気づき、分析し、対処法を考え、実行に移す力を身につけることを目的とする。コンプライアンスに関する正しい思考や知識を身につけることで様々なジャンルの企業の健全な発展に貢献できる力を身に付けることを授業の到達目標とする。	
		ビジネス法規		この「ビジネス法規」は、企業が企業活動を行う際のルールとしての法規が、日本においてどのように形成されてきたのかについて振り返りながら、現代のグローバル化して変化が激しい経営環境のなかで、特に考えておかなければならないことはどういうことなのかを明らかにしていくことに目標を置く。そのため、授業内では「商法」から独立した「会社法」と「金融商品取引法」を主たる考察対象とし、その到達点と課題に焦点を当てつつ講義を進める。	
		Webマーケティング		Webサイトの基本的な仕組み、SEO、SEMなどの基本を踏まえ、Webサイトの企画や設計、デザイン、コンテンツの制作方法、Webサイトの運用や更新の方法などを学ぶ。稼働したWEBサイトへの有効なマーケティングツールとして、SNSを活用した情報発信による顧客との接点の増やし方、SNS広告運用を学ぶ。最終的にはWEBサイトのデータ解析と改善を行うことで、より効果的なマーケティング手法を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	展 開 科 目	商品プランニング	市場調査や競合分析、ターゲット顧客層の把握、商品のライフサイクルなどの概念について学び、商品企画を立案する。商品の特徴や機能、価格、パッケージ、ブランディングを策定し、商品のコンセプトや既存品との差別化を明確にする。企画、アイデアを形にする過程では、イラスト、CG、写真加工の技法を用いて企画段階の商品を可視化し、より具体的に商品イメージを提案する。企画商品について、広告や宣伝、販売促進、PRなどのマーケティング手法を取り入れ、販売を想定したシミュレーションを行う。より具体性のあるものについては実際に小ロット製作し、期間限定ショップやフリーマーケット、WEBショップなどの店舗で販売することも視野に入れた学習を行う。	
		データ解析演習	データ分析スキルは昨今特に重要性が指摘されており、ビジネス業界での成功に欠かせないスキルの一つとなっている。この「データ解析演習」では、データの取得、クリーニング、パイアスの分析、さまざまな聴衆にデータを表示する方法を学習する。データ分析とAIツールを利用する専門知識を身につけるとともに、PythonまたはRでの基本的なプログラミングスキルの修得を授業の到達目標とする。またAlmaLinuxについても学習する。	
		ビジネス統計演習	ビジネスの現場で何らかの意思決定を行うに際して、関連するデータを集めて分析し、得られた情報を参考にするのは最早ありふれたシーンと言える。その際、集めたデータから必要となる情報を切り出して、その情報から有意な結論を導き出すために、またそもそも、データの集め方をデザインするために統計学の知識は不可欠である。この授業では、その不可欠な統計学の基本的な概念を理解することを目指す。そして併せて表計算ソフトによる演習を通じて、その概念の実用法について学ぶ。	
		現代企業論	現代の企業は、過去の実績を積み重ねながら、日々の課題や将来のリスクに立ち向かい、現在を生き抜いている。企業の過去の業績だけに焦点を当てても、同じ状況は2つと存在しないため、ビジネスの世界では過去の事例はあまり関連性がない。そのため企業の強み、脅威、および機会を継続的に分析し、できる限りリアルタイムの正確な予測やモデリングを行う能力は、重要なビジネススキルとなる。この「現代企業論」では、様々なケーススタディを通じて、現代企業を分析するためのフレームワークと手法を学習する。	
		消費文化論	本講義では、まず消費文化について学習する。具体的に現代社会における様々な消費現象、消費文化の概念、社会背景と社会的影響について学習する。次に、情報社会といわれる現代において、「なぜ顧客は市場でそのように行動するのか」というマーケティングの基本的な問いを用いて、消費文化に参加する消費者行動について考察する。消費文化として取り上げる領域は、買い物、映画・スポーツ鑑賞、ゲームセンター・カラオケ、ドライブ・旅行である。最後に、企業が消費文化に参加する消費者行動に対してどのような戦略的生産や販売活動を展開しているかについて考える。講義では、主導的な学習を進めるために、発言やグループディスカッションを適宜に行う。	
		地域振興論	地域振興とは、「地域の問題を解決すること」や「地域を元気にすること」であり、地域活性化、地域創生、地域づくり、まちづくり、村おこし、シマおこし等とも呼ばれる。この授業では、地域の構造と現状・課題について、「社会構造」「経済産業構造」「政策構造」の3つの側面から理解する。その上で、全国各地域の多くの具体的な事例をもとにして、地域振興のあり方を理論的かつ実践的に学ぶ。さらに、地域づくり団体の設立と活動の実践的ノウハウも学ぶ。必要に応じて、各回で時事問題、就活情報等も紹介する。	
		非営利組織論	この授業では、社会貢献を第一に考え、公益活動あるいはビジネス・経済活動を行う「民間非営利組織」を理論的かつ実践的に学ぶ。民間非営利組織（NPO）には、狭義のNPO（NPO法人、市民公益活動団体等）と広義のNPO（公益社団法人、公益財団法人、社会福祉法人、学校法人、医療法人、生活協同組合、農業協同組合、宗教法人等）がある。「社会貢献とビジネスを両立する働き方」を目指して、NPO法人などで就職や起業する人も増えている。こうした民間非営利組織について、全国各地の多数の具体的な事例も交えて理解するとともに、NPO法人を具体的に設立するための実践的ノウハウも学ぶ。必要に応じて、時事問題、就活情報等も紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	展 開 科 目	中小企業論	全国358万社のうち99%超は中小企業であり、従業員数の7割が、そこで働いている。学生は、中小企業はなじみの少ない存在かも知れないが、日本経済のみならず社会を支えし活躍している。そういった意味では、日本の経済構造の中では、重要な位置づけを占めている。この授業では中小企業の実状について検討し、今後の中小企業の可能性を探っていきつつ、中小企業の求める人材どのようなものを理解できる地元に存在する様々な中小企業を身近に感じることができるようにする。	
		都市開発論	人口・資本・都市の様々な機能が集中する都市において、人口や産業の受け皿となるために様々な都市開発が行われてきた。人口減少、少子高齢化、経済・社会活動の停滞、コロナ禍などの諸課題への対応が求められる日本において、都市開発の変遷を国内外の事例も交えて都市開発の実施効果や課題について学ぶ。都市開発についてでできるだけでなくの事例を交えて学び、課題に取り組むことで、情報収集や分析・考察、表現力を高める力をつけることができるようになることを授業の到達目標とする。	
		アントレプレナーシップ論	この授業では、アントレプレナーシップの概念を把握し、起業家精神を発揮し、起業活動を考える。まず、働くには雇われるか、起業するかの選択肢がある。大学を卒業して、定年の65歳まで働くとして、40年以上の年月で、起業を考える機会がないとも限らない。そのためにも、起業家的考えや行動がサラリーマンとどう異なるのかを学び、実際に起業をシミュレーションを行う。具体的には、どのような市場にどのような商品・サービスを投入するかを考え、マーケティングを進めるとともに、そのビジネスモデルをブラッシュアップし、イニシャルコストを明確にし、資金調達や広告宣伝方法も含め、資金回収する具体的見込みをビジネスプランとして落とし込むこととする。	
		観光マネジメント	本講義は、観光マネジメントを考えるための基礎となる知識を身につけることを目的とする。具体的には、観光の構成要素や観光資源だけでなく旅行業や宿泊業のほか交通運輸業などの観光関連サービス業の現状と課題や、観光事業におけるマネジメントについて説明する。また、観光におけるプラス面だけでなく、観光のマイナスの影響、観光政策などの概要を学ぶ。観光の諸要素、課題、関連産業等について説明できる力を身に付けることを本授業の到達目標とする。	
		レジャー産業論	現在、社会では生活の質（QOL）やワークライフバランスなどが重視されるようになってきた。そんな中、余暇の過ごし方に注目が集まっている。そして、人々に余暇の楽しみ方を提案するレジャー産業は日本の重要な産業のひとつに成長し、今後も成長が期待できる分野となっている。そこで、本講義ではレジャーの特性について理解する。さらに各種レジャー産業について、それぞれの歴史、現状と課題などについて、受講者自らが調べ、発表することで理解を深める。	
		観光資源探求	世界中で観光振興による地域活性化に期待が寄せられている。観光振興のためには、世界遺産をはじめとする顕著な観光資源、文化・風習、食などの魅力を活かすはもちろん、それまで観光資源としてみなされてこなかった様々なものを活かすことが重要となる。この授業では、日本、そして世界でどのようなものが観光資源となっているのかを知るとともに、これから観光に活かすことができそうな新しい観光資源を受講者自身が調べ、紹介していくことで理解を深める。	
		地域観光論	現在日本は、“観光立国”の実現に向けて取り組んでいる。なぜ、今観光に熱い視線が注がれているのか、国としての取り組みはもちろん、各地域が新しい魅力や楽しみ方を提案していくとともに、多様化する観光者のニーズを的確にとらえて対応していくことが必要となる。そこで、本講義では、観光振興に向けた日本各地の取り組み事例を幅広く知り、地域観光振興の成功の秘訣、これからの地域観光振興の方法などを考えていく。	
		現代観光論	世界中で観光振興に向けた取り組みが行われている。その一方で観光に伴う問題点やマス・ツーリズムの弊害が指摘され、「持続可能な観光」の実現が課題となってきた。本講義では、観光地で起きている諸問題を理解し、「持続可能な観光」への視点等を身につけることを目的とする。そのために各地で起きている観光に伴う問題について解説し、エコツーリズムなどについて学習する。さらに現代の観光研究の諸領域に関する研究論文等を読み、発表することで現代観光の諸相を幅広く学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	展 開 科 目	International Business English I	In this class, you will develop basic English skills and gain confidence in working in international business settings. This class focuses on building practical business English skills through interactive projects and communication, reading, and writing activities. In addition, cultural understanding will be developed through exposure to international views, cultures, and business environments. This class is in English only. この授業では基本的な英語力を身に付け、国際的なビジネスシーンで活躍するためのスキルを身に付ける。特に双方向型のプロジェクトやコミュニケーション、リーディング・ライティングの活動を通して、実践的なビジネス英語のスキルを重点的に身に付ける。また、国際的な視野・文化・ビジネス環境を学び、文化的な理解を深める。なおこの授業は全て英語で実施する。	
		International Business English II	This class focuses on expanding practical business English skills. There will be an emphasis on interactive projects and communication, reading, and writing activities. In addition, you will continue to increase your cultural understanding and awareness by exploring international views, cultures, and business environments. This class is in English only. この授業では実用的なビジネス英語のスキルを身に付ける。特に双方向のプロジェクトやコミュニケーション、リーディング・ライティングの活動に重点を置く。さらに国際的な視野・文化・ビジネス環境を学び、文化的な理解と意識を高める。なお、この授業は全て英語で実施する。	
		Marketing and Management in English	This course aims to explain marketing and management concepts in English. You will develop a basic understanding of marketing and management in international business while learning business English vocabulary. This class focuses on developing basic marketing, management, and global business skills through interactive projects and communication, reading, and writing activities. この授業ではマーケティング及びマネジメントの概念を英語で解説する。ビジネス英語の語彙を学びながら、国際ビジネスにおけるマーケティングとマネジメントの基本的な理解を深める。特に双方向型のプロジェクトやコミュニケーション、リーディング・ライティングの活動を通して、マーケティング、マネジメント、グローバルビジネスの基本的なスキルを重点的に身につける。	
		国際貿易論	貿易取引が商社のみならず様々な企業活動に影響を及ぼし、各国経済への多面的な影響を及ぼすことについて理解することを目的とする。何故貿易は行なわれるのか、交易条件、国際市場における価格の決定、数量の決定など国際経済理論の実物市場を取り扱う基礎理論について解説した後、輸入など国境を越えて行なわれる経済取引の実例を上げ、個々の商社が国内販売より海外への販売（輸出）を選ぶ理由や条件を明らかにする。そして利益を上げるために行なわれる商社の輸出行動が国の経済に及ぼすマクロ経済効果について講義する。	
		アジア経済論	グローバル化するアジア地域のビジネスの現状と課題を理解することが目標である。アジア地域へ進出する日本企業の製造業、流通業、サービス業の現状と課題を理解する。授業は、講義形式で行う。また、東南アジア地域、東アジア地域でビジネスを展開する日本企業の活動をレポートしたビデオ番組のケースを紹介し、日本企業のアジア進出の現状と課題を理解する。理解度を確認するために授業中にディスカッション・タイムやレポート提出を導入する。	
		スポーツマネジメント	スポーツマネジメントとは何か、なぜスポーツにマネジメントが必要なのか、スポーツマネジメントの重要性について概説する。その上でスポーツ組織や地域スポーツクラブの経営のあり方について検討することを目的とする。そこで本講義では、スポーツ事象を経営学の視点から捉え、その基礎理論を理解するとともに、スポーツ環境を取り巻く様々なスポーツビジネスを事例としてとりあげ、スポーツマネジメントの実践的なあり方について考える。	

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	展 開 科 目	スポーツビジネス	スポーツには、「する」「みる」「支える」といった側面がある。そして、そこには一般的なビジネス、いわゆる製品を「製造する」「販売する」「サービスする」などと同様なビジネスが存在する。そこで、本講義では、(1) スポーツビジネスとは何か、(2) サッカーによるスポーツマーケティング、(3) プロスポーツビジネスの実際、(4) フィットネス産業、(5) スポーツ・ツーリズムといった5つのテーマを取り上げ、わが国におけるスポーツビジネスの今後のあり方について理解を深める。	
		スポーツ情報論	近年、スポーツ界では様々なデータを活用している。例えば、身体能力やチームワークで競うスポーツ競技では、いまやこれらのデータ活用は必須であり、高いデータ収集・分析能力を持つチームが、優位となることはいうまでもない。そこでこの授業では、野球やサッカー、ラグビーなどのスポーツ競技におけるデータ活用の事例を取り上げ、スポーツと情報のかかわりについて理解を深める。以上の内容を講義形式で行う。	
		コミュニケーション技能	この「コミュニケーション技能」では、ビジネスにおいて求められる基本的なコミュニケーション技能を身に付けることを目的とする。プレゼンテーションの基礎的な技法やヒアリング・フィードバックの方法、ビジネスシーンでのマナーなどについて学習する。またグループディスカッションにおけるコミュニケーション技能も重要なテーマとして取り上げる。授業は実践的な演習を通じ、自分の意見を明確かつ説得力ある形で表現する力を養うことを目指す。	
		マーケティングプレゼンテーション	「マーケティングプレゼンテーション」とは、マーケティング活動のあらゆる段階において、目的を明らかにし関係者間でゴールを共有し、KPIを明確にすることで、顧客の理解と共感を獲得・購買を促すためになされる「話法」である。そこで、この授業ではマーケットセグメンテーションやカスタマージャーニーなどのマーケティング理論に則って、自分の考えを説得力をもって相手に伝えることや効果的なマーケティングプレゼンテーションの作成の手法について学習する。	
		ビジネスプレゼンテーション	この「ビジネスプレゼンテーション」では、幅広いビジネスプレゼンテーション実務に対応する専門的知識・スキルを修得し、それを活用する力を身につける。特に日本語表現、口頭表現、身体表現、情報機器操作の知識や技術を総合的に活用し、ビジネス社会のさまざまな場面で効果的なプレゼンテーションができる能力を高めるため、プロジェクト・ゼミなどでの活用を念頭に置きながら、実際のビジネスケースなどをもとに演習形式で学ぶ。	
関 連 科 目		情報メディア論	本講義ではメディアの発達や変化に伴う情報流通の変容が、社会へ与える影響について学ぶ。古代から近代にかけて、どのようなメディアが誕生し、社会にどのようなインパクトを与えてきたのか。現代社会ではデジタル化がメディアと情報流通にどのような変化を及ぼしているのか。また近い将来において、AIやメタバースなどの新しい技術がメディアと情報流通をどう変容させ、社会がどのような影響を受けるのか。この科目は記憶媒体の技術論ではなく、メディア史やメディア理論を通じて、メディアと情報流通に関するリテラシーを高めていく。	
		アメリカの文化と社会	アメリカ合衆国のモットーである“E Pluribus Unum”(多数からできた一つ、すなわち多くの州の連合でできた一つの政府)、そしてアメリカの歴史の中で折に触れて文書や演説に使われ、今もアメリカ人の中に脈々と流れる“All men are created equal”(すべて人は平等に創られた)の精神を軸にした講義である。受講者は、合衆国の歴史の中で培われた連邦制度と選挙制度について学ぶ。さらに、人種・性別・肌の色を含む様々な差別廃止を求める運動およびアメリカ社会の変化と発展について、講義と自主学習を通して理解し、自ら考えることを到達目標とする。	
		中国の文化と社会	現代中国の社会と文化を理解するとともに、国際的視野を養うことが目標である。近年国際社会の中で存在感を強めている中国であるが、国内外に多くの問題をかかえている。本講義では、中国の歴史、台湾と香港の問題、言語と文化、政治、経済、海外の華人社会など現代中国を理解するために必要な内容について講義する。必要に応じて最新のニュースもとりあげる。講義形式で行うが、リアクションペーパーやレポートを課して、一方通行にならないよう配慮する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(経営学部ビジネス学科)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	関 連 科 目	アジアの文化と社会		本授業では、ASEAN諸国から構成される東南アジア世界の基本知識を学んだ上で、主に島嶼部の文化・社会に関する理解を深める。この地域は紀元前後より展開した「インド化」や交易を通じた中東文化の受容の他、大航海時代における西洋文化の移植、近代の植民地支配や第二次大戦後のナショナリズムなど、複雑な文化形成の過程を経てきた。「文化のモザイク」と称される民族・言語・宗教の多様性が築かれるまでの歴史的経過を辿りながら、その文化的特質を現在の動向も含めて考える。授業は講義形式で行う。	
		イスラムの文化と社会		現在、世界には約20億人ムスリム（イスラーム教徒）がいると言われている。これはキリスト教徒に次ぐ規模で、イスラームは人口で言えば世界第二の宗教と言える。グローバル化した世界では、イスラーム社会を訪れたり、現地で働いたりする機会はますます増えていく。また、日本にも多くのムスリムの人々が住んでおり、地域での交流が生まれている。この授業では、日本ではまだ身近なものではないイスラームの文化や社会について、様々な事例を取り上げて学習していく。多くのメディアでは、イスラームは「危険な存在」だと言われることが多いが、この授業ではイスラーム文化の魅力と共に、イスラームの多様な姿を学んでいく。	
		日本文化論		日本文化の流れが独自の展開をしてきた状況を歴史的に理解する。日本文化史への知識を深めることは、日本を取りまく国際環境を正しく理解して行くことに資することになるであろうし、これにより異文化へのいっそう深い理解が培われるはずである。将来、国内外での社会活動をしてゆく基盤として、日本文化への理解は不可欠であると考え。日本史の通史を念頭に置きつつ、その時代の文化的特色を体系的に知ることを目的とする。講義形式で進める。	
		地域ビジネス特講Ⅰ		これからのデジタル時代における地域ビジネスでは、単なるモノづくりではなく新しいビジネス・仕組みをつくるための力が求められている。本講義では、そのような力を身につける基礎として、政治、経済、国際、社会一般における時事性の高いテーマに対して、アカデミックなアプローチができることを目指す。とくに、専門的な学びの開始段階に学ぶことによってこれらの基礎固めを行い、幅広い視野から地域ビジネスについて考える。	
		地域ビジネス特講Ⅱ		これからのデジタル時代における地域ビジネスでは、単なるモノづくりではなく新しいビジネス・仕組みをつくるための力が求められている。本講義では、そのような力を身につける基礎として、政治、経済、国際、社会一般における時事性の高いテーマに対して、アカデミックなアプローチができることを目指す。とくに、幅広い視野から地域ビジネスについて考えることによって、自ら問題意識をもって、キャリアや専門的な学びに向けた基盤的能力を身につける。	
プ ロ ジ エ ク ト 科 目		課題解決概論	○	現在問題となっているさまざまな課題を取り上げプロジェクト形態を通して学んでいく。この科目の目的である問題解決については、問題発見のプロセスが重要になるため、プロジェクトの利点を活かし、取り上げる課題についてどのような課題解決が必要なのかなど、少人数での討議や調査を行う。さらに、学習をつうじて当初には想定していなかった新たな課題や隠された問題を発見するなど、発展的な学習や深化する学習を進めていく。	主要授業科目
		プロジェクト基礎	○	プロジェクト学習の基礎となる、プロジェクトに関する基本的考え方、プロジェクト学習の進め方を理解することを課題とする。大学における学びの大切さ、プロジェクトが課題とする自学自習の重要性などを、初歩的な素材を利用しながら学んでいく。とくに学習についての姿勢や学習への取り組みなどを重視し、グループ・ディスカッションの機会を用いて成員相互で学ぶ重要性を学習する。	主要授業科目
		課題解決プロジェクトⅠ	○	本科目は、2年次までの各学科の学びを深めるために、受講生のキャリアプランや専門演習における知見を活かし、プロジェクト科目として演習形式で行われる。2年次までの各学科での学びに関連するテーマをもとに、自ら課題を発見し、チーム別で解決案を模索し、中間プレゼンを経て最終プレゼン・企業等の方々から評価を受けるという実践の場が設定される。解決案は、実施計画と方策の立案を中心としたものであるが、方策の実施に伴い、場合によっては学外での活動を取り入れる。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
（経営学部ビジネス学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	プロジェクト科目			
	課題解決プロジェクトⅡ	○	本科目は、4年次に向けて各学科の学びを深めるために、受講生のキャリアプランや専門演習における知見を活かし、プロジェクト科目として演習形式で行われる。4年次に向けた各学科での学びに関連するテーマをもとに、自ら課題を発見し、チーム別で解決案を模索し、中間プレゼンを経て最終プレゼン・企業等の方々から評価を受けるという実践の場が設定される。解決案は、実施計画と方策の立案を中心としたものであるが、方策の実施に伴い場合によっては学外での活動を取り入れる。	主要授業科目
	課題解決プロジェクトⅢ	○	本科目は、3年次までの各学科の学びを深めるために、受講生のキャリアプランや専門演習における卒業研究についての知見を活かし、プロジェクト科目として演習形式で行われる。3年次までの各学科での学びに関連するテーマをもとに、自ら課題を発見し、チーム別で解決案を模索し、中間プレゼンを経て最終プレゼン・企業等の方々から評価を受けるという実践の場が設定される。解決案は、実施計画と方策の立案を中心としたものであるが、方策の実施に伴い場合によっては学外での活動を取り入れる。	主要授業科目
	課題解決プロジェクトⅣ	○	本科目は、各学科の学びの完成に向けて、受講生のキャリアプランや専門演習における卒業研究についての知見を活かし、プロジェクト科目として演習形式で行われる。各学科での学びに完成に向けたテーマをもとに、自ら課題を発見し、チーム別で解決案を模索し、中間プレゼンを経て最終プレゼン・企業等の方々から評価を受けるという実践の場が設定される。解決案は、実施計画と方策の立案を中心としたものであるが、方策の実施に伴い場合によっては学外での活動を取り入れる。	主要授業科目
	イベントプランニング		イベントプランニングでは、地域ビジネスの活性化や地域経済の効果を意図した様々な形態のイベントをプランニングするための基礎を学ぶ。実際にイベントをプランニングするには創造力のある企画開発、プレゼンテーション技術、マネジメントといった能力を身につける必要がある。本講義では、様々なイベントの中でも、とりわけスポーツを事例とした「するスポーツ」「みるスポーツ」「支えるスポーツ」「地域振興に役立てる」といった視点から、実際の現場でイベントを実践するための能力の土台作りに取り組む。	
	マネージャー演習		マネージャー（経営者・管理者）とは、身近なところから企業まで、規模にかかわらず、その組織の部門に責任を持つものをいう。マネージャーは、戦略にそって計画をつくり目標を設定する。組織の成果を高めるために、メンバーの動機づけや育成・指導をするなどの役割を果たす。本科目では、マネージャーとして円滑に運営するための実践的スキルなどを修得する。プロジェクト・ゼミなどでの活用を念頭に置きながら、実際のビジネスケースなどをもとに演習形式で学ぶ。	
ゼ ミ ナ ー ル	専門演習Ⅰ	○	専門に関する基礎的知識の学修と基礎的实践力を養うのが主な目的である。演習方式で行われるが、各ゼミの特性を活かしたものである。また、ディスカッションを通して自分の知識を増すとともに、自分にとって必要な学びが何かを知る。それは、自己理解と他者理解をすることにもなり、専門に対する自分の意欲につながるような状況を作ることであり、ゼミ内の人間関係を構築していく入口にもなる。ゼミ内で出てきた課題にじっくり取り組んで解決するプロセスを学びとする。	主要授業科目
	専門演習Ⅱ	○	「専門演習Ⅰ」で学んだ専門のテーマについて、様々な資料を検索し、その領域のアウトラインをつかむ。方法はゼミの特徴を生かしたものであるが、調べ学習・体験学習など、アクティブな学習がより前面にでた演習となる。さらに、自分の関心のある専門分野の学習マップを作成して、学びのまとめを行う。その際、ゼミ全体としてどのような課題や疑問があるかを出し合いディスカッションを行い、専門の学習を深め、次の具体的な内容を導きだすようにする。以上の内容を演習形式で行う。	主要授業科目
	専門演習Ⅲ	○	「専門演習Ⅱ」で見出した受講者自身の関心の高い課題について、問題を設定する。その課題のテーマについて、何をどのように調べていくのかの計画を作成する。テーマの妥当性について、ゼミ内での活発な意見の交換を通して、自分もつ意見の表現の仕方、他者の意見の聞き方、それらを取り入れて計画に反映する力など、ゼミの時間全体を自分育での時間として活用しながら計画案を作り上げる。さらに、必要な資料について、多方面から収集してまとめ、先行研究のアウトラインを知る。以上の内容を演習形式で行う。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要					
(経営学部ビジネス学科)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	ゼ ミ ナ ー ル	専門演習Ⅳ	○	「専門演習Ⅲ」で立てた計画に従って、自分の課題解決を遂行する。論文作成を各人が進めていくが、調査法など互いの悩みを話すことを参考にしたり、相談したりしながら学習を進めていく。結果の出し方、考察の仕方を学び、まとめる力をつける。さらに、成果を発表するプレゼンテーションの工夫を通して、今までの学びのすべてを結集して仕上げる。自分の課題についてまとめていくのと同時に他者の成果についても聞き、自分の学びとしていく。以上の内容を演習形式で行う。	主要授業科目

学校法人東邦学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
愛知東邦大学				愛知東邦大学				
経営学部				経営学部				
地域ビジネス学科	130	－	520		<u>0</u>	－	<u>0</u>	令和7年4月学生募集停止
国際ビジネス学科	30	^{3年次} 4	128		^{3年次} <u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	令和7年4月学生募集停止 ※3年次編入 令和9年4月学生募集停止
				<u>ビジネス学科</u>	^{3年次} <u>120</u>	<u>3</u>	<u>486</u>	学科の設置(届出)
				<u>コミュニケーション・デザイン学科</u>	^{3年次} <u>50</u>	<u>2</u>	<u>204</u>	学科の設置(届出)
人間健康学部				人間健康学部				
人間健康学科	120	－	480	人間健康学科	^{3年次} <u>126</u>	<u>3</u>	<u>510</u>	定員変更(6) 編入学定員新設(3)
教育学部				教育学部				
子ども発達学科	68	－	272	子ども発達学科	<u>50</u>	－	<u>200</u>	定員変更(△18)
計	^{3年次} 348	4	1,400	計	^{3年次} <u>346</u>	<u>8</u>	1,400	